第二章　北樺太利權關係諸問題

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0580

第二章　北樺太利權關係諸問題

第一節　北樺太石油利權關係諸問題

第一款　北樺太石油株式會社ノ事業現況

會社ノ組織資本金及配當

「北樺太石油會社ハ日「ソ」基本條約附屬議定書乙第一號ニ基ク石油利權契約及北樺太利權ニ關スル大正十五年ノ勅令第九號ニ基キ北辰會ノ事業ヲ繼承シ大正十五年六月設立セラレタルモノニシテ同利權契約ニ基キ北樺太ニ於ケル八ケ所ノ油田約四六〇一七七平方露里（一千五百八十九萬七千餘坪）ノ五割ニ對スル採掘權（四十五ケ年ノ期限）及同地方ニ於ケル十一地域一千平方露里（三億四千四十二萬五千餘坪）ノ試掘權（大正十四年十二月十四日ヨリ起算シ十一ケ年ノ期限）ヲ有シ專ラ石油ノ採取及賣買ヲ營業トシ居ル處會社設立當初ノ資本金一千萬圓ハ事業ノ擴張ニ伴ヒ昭和六年七月二千萬圓ニ增額セラレ增資新株ニ付同年八月昭和八年六月及昭和九年十一月夫々二百五十萬圓宛ノ拂込アリタル結果拂込資本金ハ一千七百五十萬圓トナリ居レリ一方會社ノ營業成績ハ昭和

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0581

五年度迄ハ逐年向上ノ一途ヲ辿リ八分ノ配當ヲ持續シタルカ昭和六年度ヨリ稍々低下シ殊ニ期限完了期切迫セル試掘事業ニ多大ノ經費ヲ要スル關係モアリテ其配當率ハ昭和六年度七分昭和七年度六分ニ漸減シ昭和八年度決算ハ八十六万九千余圓ノ純益（前年度ニ比シ約七萬三千圓ノ增加）ヲ見タルモ同年度配當率ハ五分トナレリ

採油

石油會社ニ於テハ昭和九年度從來採油中ノ「オハ」及北「オハ」ノ二鑛區ノ外「カタングリー」舊鑛區ノ採油ヲ復活セリ「オハ」採掘鑛區（北「オハ」ヲ含ム）ニ於テハ本年十四基ノ坑井新設ノ外舊坑井三基ノ追掘ヲ實施シ目下百六十一基（本年廢坑セシモノ五基）ノ坑井ヲ有シ平均日產四百五十噸内外ナルモ之ヲ前年度ニ比スレハ約日產百噸ノ減少ヲ示セリ尙本年度初メ即チ四月ヨリ九月末迄ノ實際採油量ハ八七、二三八噸ニシテ前年度ノ同期ニ比シ一三、二四八噸ノ減少ヲ示セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0582
http://www.jacar.go.jp

本年復活ノ「カタングリー」舊鑛區ニ於テハ昭和九年度新規掘鑿ノ六坑井及四既設坑井ヲ合シ十坑井ヲ有シ同年度ノ採油豫定量ハ八千五百噸ナリ

尚參考ノ爲數年間ノ會社年別總產油量ヲ擧クレハ左ノ如シ

大正十五年（會社創立ノ年）	三四、三八三。五噸
昭和　二年	七七、一三六。二噸
昭和　四年	一八六、六四一。〇噸
昭和　六年	一八六、三九二。四噸
昭和　八年	一九三、三五五。〇噸
昭和　九年（計畫量）	一九一、九〇〇。〇噸（內「カタングリー」八、五〇〇噸）

追テ昭和九年度ハ產油量低減ノ結果實際採油總量ハ計畫ヨリ幾分減少スル模樣ナリ

試掘　會社ノ有スル試掘權ハ昭和十一年十二月ニ終了スヘキタメ多地方ニ亘ル試掘ヲ急ク必要ニ迫ラレ居リ加フルニ昭和九年度ハ我商工

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0582

省ヨリ從來ノ約七倍タル百二十萬圓ニ及フ巨額ノ試掘助成金ノ交付アリタルニ鑑ミ會社ニ於テハ同年度採油事業ノ擴張ヲ一時中止シ前記助成金ヲ合セ約三百萬圓ノ新規試掘事業費ヲ計上シ試掘各地域ノ試掘ニ全力ヲ注クコトトナレリ即チ昭和九年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續ノ「エハビ」第二區第一號井第三區第一號井「ボロマイ」第三區一號井北「バターシン」第一區一號井「カタングリー」第五區一號井ノ外新ニ「エハビ」第一區二號井第四區一號井「ボロマイ」第一區二號井南「バターシン」第一區一號井第二區一號井「カタングリー」第三區二號井ノ試掘ニ著手セリ而シテ右試掘井ノ內昭和九年中掘鑿ヲ完了セシモノハ「エハビ」第二區一號井ノミナルカ右ハ不成功ニ終リタリ

鑛區劃定

四、本年(昭和九年)會社ニ於テハ「ソ」側劃定官ト共ニ左記鑛區劃定ヲ實施セリ

イ、第一次劃定　「エハビ」第四區、南「バターシン」第一區第二區ノ試掘鑛區

ロ、第二次劃定　「カタングリー」第一區採掘鑛區

斯クテ昭和九年度迄ニ劃定ヲ了シタル試掘鑛區ハ本年度ノ分ヲモ合セ左記十四鑛區ナリ

北「オハ」　第一區
「エハビ」　第一區第二區第三區第四區
「ボロマイ」　第一區第二區第三區
北「バターシン」　第一區
南「バターシン」　第一區第二區
「カタングリー」　第一區第三區第五區

而シテ右試掘鑛區ノ内試掘ニ成功シ採掘鑛區ニ編入セラレタル鑛區ハ北「オハ」及「カタングリー」第一區ノ二鑛區ナリ

原油内地輸送

英會社ハ同社昭和九年度ノ採油及前年度ヨリノ貯油並ニ「ソ」側石油「トラスト」（サハリンネフチ）ヨリノ購入原油ヲ合シ總量二八〇、〇〇〇噸ヲ昭和九年度航海期中ニ内地ニ搬出スル豫定ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0585
http://www.jacar.go.jp

シ處十月十一日ノ終航迄ニ實際輸送セラレタルハ二四〇、二五二噸ニシテ前年度ニ比シ七三、三六九噸ノ減少ヲ示セリ

因ニ創業年度以降數年間ノ原油內地輸送量ヲ示セハ左ノ如シ

大正十五年度	二〇、六〇一。五噸
昭和三年度	八九、五二一。〇噸
昭和五年度	一九八、八二三。〇噸
昭和七年度	三一三、四四九。〇噸
昭和八年度	三一三、六二一。〇噸
昭和九年度	二四〇、二五二。〇噸

勤務員數及勞働者數

六會社ノ石油鑛場ニ從業セル勤務員ハ氣候及事業ノ關係上夏季ハ季節勞働者多數傭入ノ爲多ク冬季ハ尠キヲ常態トセル處昭和九年一月一日及八月一日現在ニ於ケル勞働者數左ノ如シ

	一月一日	八月一日
勞働者		
勤務員		
勞働者		
勤務員		

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0586

「オハ」（北「オハ」共）	日露	四一九一三	一四六六三	一、七九九二三九
「エハビ」	日露	八五一五	一〇一	一一七七一五
「ポロマイ」	日露	一四	一一	一一七二
「チヤイオ」（パターシン）	日露	二三一	六一	一七六三
「カタングリー」	日露	一一七	二六一	二二六二
	日露	六四八	一八八	一、五二九
	露	九六八	六四	一、六四一

七 昭和九年航海期中ニ來航セル原油積取艦船及貨客船數左ノ如シ

艦船名	隻數	總噸數（噸）	登簿噸數（噸）
軍艦（特務艦）	一	一	一
石油積取船	一四	一二〇、九二六	七三、六七四

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0587

貨客社傭船	一五	四三、三八五
汽船合計	二九	一六四、三一一
艦船合計	四〇	二七、七八六 一〇一、四六〇

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0588

利權契約追加協定ノ一部變更

第二款　利權契約追加協定ノ一部變更及團体契約改訂

一、石油利權契約追加協定第四條第五（北パタージン）地方ハ其地域狹少ノ爲利權契約第十三條規定ノ試掘鑛區設定上不都合ヲ生シタルヲ以テ石油會社ニ於テハ豫テ「ソ」當局ト交渉中ナリシ處昭和八年九月漸ク妥協ヲ見ルニ至リ右追加協定ノ一部改訂（試掘地域ノ位置變更）セラレタリ

團体契約改訂

二、石油會社ハ其創立當初ヨリ毎年「ソ」聯邦石油勞働者組合ト ノ間ニ勞働條件ヲ律スル團体契約ヲ締結シ今日ニ及ビ居レル處組合側ハ改訂毎ニ勞働者ノ條件改善ヲ理由ニ過大ナル要求ヲ出シ從テ會社側モ之ニ對抗シテ強硬ナル對案ヲ提出スルヲ以テ右改訂ニハ常ニ多大ノ日數ヲ要スルヲ常例トセリ而シテ昭和八年度同契約ハ一九三二年三月十五日締結セラレタル契約ヲ其儘一ケ年延長シタルモノナルカ右ハ昭和九年三月一日ヲ以テ滿了シタルヲ以テ同月二十七日ヨリ莫斯科ニ於テ之カ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0580
http://www.jacar.go.jp

改訂商議行ハレタル結果四月二十六日舊契約ニ枝葉部分ノ些少ノ變更ヲ加ヘタルノミニテ更ニ之ヲ一ケ年間卽チ昭和十年三月一日迄延長スルコトニ協定成立シタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0599

第三款　北樺太產「ソ」側原油購入問題

我石油會社ニ於テハ北樺太石油ニ對スル「ソ」側以外ノ內外第三者ノ介入ヲ防止スル意味ヲモ加味シ昭和四年以降年々北樺太「ソ」側石油「トラスト」「サハリンネフチ」ヨリ其原油ヲ購入內地ニ輸入シ來リ其ノ購入量ノ如キモ左表ノ通リ同「トラスト」ノ事業擴張ト共ニ年々增加シ來リタルカ最近「ソ」側ニ於テハ哈府ニ大製油工場ヲ新設シ「オハ」「モスカリオ」港（西海岸ニ在リ）間ノ送油設備ヲ完了シ以テ北樺太產原油ノ哈府輸送ヲ開始シタル結果昭和九年度ノ本「ソ」側石油購入商議ハ相當困難ナリシ模樣ナリシモ結局其數量ヲ二萬五千佛噸減シ大体左記要領ノ條件ニ依リ昭和九年四月二日東京ニ於テ會社及駐日「ソ」聯邦通商代表部間ニ賣買契約締結セラレ十月中旬約定全量ノ受入ヲ完了セリ

(一)數　量　原油十萬佛噸

(二)原油受渡期間　昭和九年四月十日ヨリ十一月三十日迄

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0521

(三)引渡遲延料　所定期日迄ニ所定數量ヲ引渡シ得サルトキハ遲延料トシテ「ソ」側ヨリ一日一佛噸ニ付金壹錢ヲ支拂フ

(四)「ソ」側ノ義務及會社側ノ優先權　「ソ」側ハ所定原油全量ノ引渡ヲ了スル迄ハ他ニ之ヲ販賣セス又「ソ」側ニ於テ販賣シ得ル餘剩アル場合會社ハ他ニ優先シテ之ヲ買取ル權利ヲ有ス

(五)前渡金　會社ヨリ通商代表部ニ對シ原油購入ノ前渡金ヲ支拂ヒ「ソ」側ハ之ニ對シ年八分ノ利子ヲ原油ヲ以テ支拂フ

(六)免稅　會社ハ「ソ」聯邦ノ國稅、地方稅及凡ユル公課ヲ免除セラレ關稅其他一切ノ手數料ヲ支拂ラハスシテ購入原油ヲ搬出スル權利ヲ有ス

(七)準據法律　契約ノ成立及效力ニ關シテハ日本帝國ノ法律ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0593

據ルモノトス

更ニ石油會社ハ十一月二十八日駐日「ソ」聯通商代表部トノ間ニ右ト略々同樣ノ條件ニテ十二月末日迄ニ二萬佛噸ノ原油購入ノ契約ヲ締結シ既ニ受入ヲ開始セリ

尙昭和四年以降ノ年別購入量ハ左ノ如シ

昭和四年　二七、七一三。三佛噸
昭和五年　三七、二九九。九佛噸
昭和六年　一一二、五四三。四佛噸
昭和七年　一三四、九八二。六佛噸
昭和八年　一二四、七〇九。九佛噸
（同年度ニハ約五千噸ノ未引渡分アリ）
（昭和九年度ニ繰越ノ筈）
昭和九年（契約豫定量）一二〇、〇〇〇。〇佛噸

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0593

第四款　日本人勞働者輸送許可問題

會社ハ利權契約ニ基キ昭和九年度事業計畫遂行上必要トスル露人勞働者一、六二七名ヲ同年四月一日哈府執行委員會附屬勞働力配給委員會ニ傭入方申込タル處先方ハ利權契約三十一條ニヨリ五月十五日前ニ右ノ内一三六名ヲ豫メ供給シ得サルモノトシテ之ニ對シ邦人ノ代用傭人ヲ容認シ來レリ次テ殘數一、四九一名ニ對シ六月九日ヨリ詮衡試驗ヲ開始シ同廿二日終了ノ結果九八〇名ノ露人勞働者ヲ合格者トシテ傭入レタルモ殘餘五一一名ハ蘇側ニ於テ供給スルヲ得ス利權契約三十一條ニ依レハ此ノ供給不能トナレル勞働力ハ日本人ヲ以テ代用セラルルコトトナリ會社ハ當該數ノ日本人勞働者ヲ利權地ニ送込ム權利ヲ有スルモノニシテ從來ハ詮衡試驗終了シ供給不能數確定ト共ニ直チニ哈府勞働機關ヨリ東京蘇聯邦通商代表部及總領事館宛ニ代用日本人送込許可電ヲ發シ總領事館ハ支障ナク入國査證ヲナシ來レルモノナリ然ルニ昭和九年ニハ前述ノ如ク既ニ六月廿日ヲ以

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0594

テ試驗ヲ終了シ供給不能數確定セルニモ拘ラス哈府勞働部配給委員會ハ右送込許可發電ヲ躊躇シ殊更ニ中央當局ノ意見ヲ徵スル要アリトテ解決ヲ中央ニ移シタルヲ以テ會社ニテハ莫斯科駐在員ニ移牒シ哈府ノ態度ヲ難詰シテ交渉セシムル一方哈府出張員ニ對シテモ問題ノ性質上何等中央ノ解決ニ移スヘキ理由ナキコトヲ强調シテ例年通リ哈府限リニテ許可電ヲ發スル樣嚴重交渉セシメタル處中央ニ於テハ前記五一一名ノ內一部四〇〇名ヲ許可スヘキ旨哈府宛電命セシメタリトノ報告アリ又浦潮（先方責任者浦潮ニ突如出張セル爲メ交渉地ヲ哈府ヨリ浦潮ニ移シタリ）ニ於テハ帝國總領事ノ斡旋ニ依リ先方ヲシテ六月三十日附ニテ全部ノ許可發電方承諾セシメタル筈ナルニ極東委員會ハ右約束ヲ實行セサルノミカ東京通商代表部宛問題ノ供給不能數五一一名ニ關シテハ目下莫斯科ニ於テ審議中ナリ云々ト架電シ來レルヲ以テ浦潮交渉員ヲシテ痛ク不誠意ヲ難詰セシムルト共ニ莫斯科駐在員ニ右ノ事情ヲ電シ全部ノ輸送許可指令ノ發電方督促

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0595
http://www.jacar.go.jp

セシメタル結果漸ク七月七日ニ至リ東京商務館ニ入電ヲ見ルニ至レリト雖モ其内容ハ更ニ悪化シ爰ノ四〇〇名ノ代リニ三五五名ハ無條件ニ日本人輸送ヲ承認シ殘餘一五六名ニ對シテハ内一〇〇名ヲ北樺太現地ニ於テ五六名ハ哈府ニ於テ供給スヘシト主張シ來レリ

一方浦潮交渉ハ先方代表カ突如哈府ニ歸任セル爲メ交渉員同地ニ急行シ依然五一一名全部ノ容認方交渉セル處前記中央ノ回答ト同樣ノ言明ヲ爲シテ讓ラス、斯クシテ一五六名ニ對シテハ中央竝哈府共ニ我正當ナル主張ヲ容認セサリシモ翌八日ニ至リ中央ニ於テハ遂ニ一五六名中一三〇名ノ邦人輸送許可ヲ認メ次テ哈府ニ於テハ九日一五六名全部容認スルコトトナリ斯クテ紛糾ニ紛糾ヲ重ネタル本問題モ茲ニ解決ヲ見ルニ至レリ

會社ハ現場送込船ノ船繰、出港期日蘇國領事ノ査證等幾多ノ複雜多岐ノ事由アルニ鑑ミ從來ノ例ヲ踏襲シ供給不能數ノ通知ヲ得ルヤ代用日本人勞働者ヲ傭入レ出發準備ヲ實行セルモ前記蘇側ノ不當措置

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0596
http://www.jacar.go.jp

ノ爲メ空シク二隻ノ送込船ヲ滯船セシムルノ止ムナキニ至レル爲メ滯船料、勞働者ノ船待日當、積荷食糧品ノ腐敗等ノ直接損害ハ勿論現場ニ於ケル事業遂行ニ支障ヲ來シタル間接損害甚大ナルモノアルヲ以テ「ソ」側ニ對シ糾彈的警告ヲ發スルト共ニ賠償提起ヲ爲シタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0597
http://www.jacar.go.jp

第五款　北樺太東海岸利權地（各支所）ヘ船舶入港制限ニ關スル件

例年會社ノ社船並ニ傭船ハ內地ヨリ諸材料物資及人員ヲ積載シテオハ並ニピリツン、チャイオ、ナビリ等ノ各支所ニ寄港輸送作業ヲ實施シ蘇側ニ於テモ右寄港ハ當然ノコトトテ何等支障ナク取計ヒ來レリ（尤モオハ並ニ各支所間ノ人員輸送ニ際シテ右外航船ニ便乘ノ件ハ現地ニ於テ屢々問題トナリタルモ中央交渉ノ結果昨年ノ如キハ便乘ヲ認メタリ）素ヨリ右ハ利權契約三十五條ノ規定ニ則リ豫メ當該官憲ノ同意ヲ得テ實施スルモノナルヲ以テ何等異論ノ生スヘキ理由ナキニ不拘且又內地ヨリ輸送スル積荷荷卸ノタメ各支所ニ寄港スルコトハ言フ迄モナク作業上ノ必要ニ出ツルモノニシテ毫モ沿岸航海ト見做スヘキニ非サルニモ拘ラス昭和九年既ニ航海期ニ入リ例年通リ配船計畫ヲ樹テ之ヲ通告シ且其一部ヲ實行シテ將ニ第三船（高雄丸）ノ荷役ヲ函館ニ於テ終ラントスルニ及テ突如トシテ中央蘇側官憲ハ各支所地ニ入港スヘキ船舶ニ制限ヲ加ヘオハヲ除ク各利權地ニ寄港

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0598

シ得ル外航船ハ特定ノ二隻ニ限ル旨命令シ來レルヲ以テ再三抗議ヲ重ネ利契上ノ權利ヲ蹂躙シ故意ニ經營ヲ困難ナラシメ作業ヲ遲滯セシムルモノトシテ極力論駁セシメタルモ先方ハ何等ノ理由ヲ示スコトナク前記函館ニ於テ航海準備略完了セントスル船舶ニ對スル所謂特定二隻ノ除外的要求サヘ頑トシテ聞入レサルヲ以テ既ニ航海期ニ入リ爾後ノ傭船ノ都合モアリ交渉ニ時日ヲ空費スヘキ餘裕ナカリシヲ以テ蘇側ノ申出ニ應スルノ餘儀ナキニ至リ急遽配船計畫ヲ變更シテ第四船以下ノ數隻傭入契約ヲ解除シ換フルニ特定二隻ヲ全期間就航セシムルコトトシ他面通商代表ニ斡旋ヲ求メタル結果辛フシテ前記高雄丸ハ一回限リ支所寄港トシテ承認セラルルニ至レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0599

北樺太方面港灣ニ於ケル「ソ」側ノ我船船ニ對スル取扱振

第六款　北樺太沿岸領海内ニ於ケル我船船ノ無線電信使用問題

一、「ソ」官憲ハ一九二八年七月二十四日附「ソ」聯邦水域内ニ在ル外國船舶ノ無線電信使用規則ニ基キ北樺太方面ノ港灣ニ入港スル外國船舶ニ對シ入港ト同時ニ直チニ船内備付ノ「ラヂオ」發受信器ヲ封鎖スル爲北樺太沿岸ニ多數ノ石油鑛場ヲ有スル我石油會社ノ所屬船舶ハ氣象通報又ハ警報ヲ總取シ得サルノミナラス殊ニ同沿岸ニハ何等ノ設備ナク加之天候極メテ險惡且變化急激ナル實狀ナルヲ以テ屢々遭難其他ノ不幸ヲ經驗スルコトアルニ鑑ミセメテ受信器ノミニテモ使用許可スル樣「ソ」側當局ト交渉方石油及石炭利權企業ヨリ當省ニ陳情アリタリ此ノ外本問題ニ付テハ昭和七年十一月北海道船主大會議長ヨリモ漁業、林業關係ニテ露領沿海州、「オホーツク」並ニ樺太方面ニ航行スル多數ノ本邦船舶モ「ラヂオ」封鎖ニ基因シ多大ノ危險ト

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0600

「ラヂオ」受信機使用許可方ニ關スル對「ソ」交渉

苦痛不便ヲ忍ヒ居ル實狀ニ鑑ミ之カ解決方同樣請願アリタリ

二、依テ在「ソ」帝國大使館ニ於テハ外務省ヨリノ訓令ニ基キ昭和七年當初以來最近左記趣旨即チ

(一)我現行法上ノ原則トシテハ我領海內ニ碇泊スル外國船ハ其「ラヂオ」機械ヲ使用シ得サルコトトナリ居ルモ遞信省ニテハ時報、氣象報、船舶航行上ノ危險警戒、水路告示、其他海上ニ於ケル生命財產ノ保全ニ必要ナル事項ニ關スル一般艦船宛公報ノ放送ハ外國船モ受信シ得ルコトニ特ニ規定ヲ改正スルモ差支ナキニ付「ソ」側ニ於テモ其領海內ニ於ケル日本船船ニ對シ「ラヂオ」受信機ノ使用ヲ許可スルコト(二)我國船舶カ北樺太沿岸ニ於テ屢々海難ニ遭遇スルハ同方面ニ於ケル測候所カ天氣豫報又ハ警報ヲ發シ得ル施設ヲ有セス而モ「ソ」官憲カ入港ト同時ニ「ラヂオ」受信器ヲ封印スル爲碇泊中ノ船舶カ日本中央氣象ノ天氣豫報ヲ聽取シ能ハサルコトニモ基

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0601

因ス(三)「ソ」側ハ同「ラヂオ」使用規則第七條ヲ指摘シ居ルモ亞港「オハ」土威等ハ殆ト港ト云ヒ得ヘキモノニアラサル上北樺太沿岸地方ニ於テハ天候極メテ險惡且變化急激ナリ從テ天氣豫報又ハ警報ヲ受信シ得セシムルハ其安全ノ爲極メテ必要ナルコト(四)又同規則第三條ニ付テハ右三港ハ何レモ同規定ノ利益ヲ受ケ得サルコト

等ニ基キ「ソ」聯邦外務部ニ對シ再三再四交渉ヲ試ミタルモ「ソ」側ハ終始一貫要スルニ

(一)一九二八年七月二十四日附ノ本件規則ヲ除外例トシテ日本船舶ノミニ廢棄又ハ變更スルヲ得ス(二)同規則第三條ニ依レハ軍艦ナラサル外國船舶ニシテ最寄ノ陸岸無線電信所ヨリ半經十哩以上ヲ離レタル港灣ニ在ルモノハ當該商港長官ノ特別許可ニ依リ「ラヂオ」設備使用權ヲ附與セラルルコト(三)又同七條ニ依レハ船舶ノ無電設備使用權ノ制限ハ危險ニ瀕セル船舶

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0602

又ハ災難豫防ノ通報ヲ爲サントシ或ハ他ノ遭難船舶ニ援助ヲ與ヘントスル船舶ニハ及ハサルコト(四)日本船舶ニ對スル必要ナル氣象上ノ資料ノ提供ハ現存及近ク北樺太諸港及極東地方ニ開設セラルヘキ「ソ」聯邦氣象觀測所ニ依リ保障セラレ得ヘク而シテ當該機關ニハ北樺太諸港碇泊中ノ日本船舶ニ對スル氣象情報ノ報知ヲ保障スル樣指令セリ云々

ト主張シ極東地方ニ於ケル特殊ノ事情等ニハ全然考慮セスシテ頑強ニ我方要望ヲ應諾セサル爲本件交渉ハ未解決ノ儘今日ニ及ヒ居レル有樣ナリ

三、我石油會社ニ於テハ逐年事業ノ擴張ニ伴ヒ其ノ船舶ノ來航モ漸次多數トナリ從テ本問題未解決ニ相當苦痛ヲ感シ居リタル爲一方我政府ノ正式交渉ノ結果ヲ待ツト共ニ他面現地ニ於テモ「ソ」地方官憲ニ對シ毎年本件問題ヲ提起シ何トカ便法ヲ講スル樣請願ヲ試ミ居リタリシカ容易ニ埒明カサリシ有樣ナリキ然ルニ

現地「オハ」ニ於ケル本件交渉並ニ「ラヂオ」使用許可取付

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0603

同社「オハ」鑛業所ハ昭和九年春當地新任稅關長ニ對シ再ヒ本件ヲ持出シ不取敢「ナビリ」海岸（「カタングリー」支所附近）ニ於テ荷役作業ヲ爲ス同社船舶ノ「ラヂオ」使用許可方請願ヲ試ミタル處意外ニモ該「カタングリー」「ソ」側機關ニ於テ異議ナキ限リ之ヲ許可スヘキ旨ノ言明アリタルヲ以テ直チニ現地「ソ」機關ト交渉シタル處是亦異議ナカリシ爲漸ク其要望ノ一部ヲ達成スルヲ得タリ依テ鑛業所ニ於テハ右例ニ倣ヒ「チヤイオ」海岸（「バターシン」「チヤイオ」支所附近）ニ於ケル船舶ニ付テモ均シク「ラヂオ」使用許可方請願ノ結果是亦「カタングリー」同樣ノ經緯ヲ經テ之カ許可ヲ得爾來之等同海岸碇泊ノ本邦船舶ハ支障ナク「ラヂオ」ヲ使用シ居レリ

尙「ボロマイ」支所附近ノ「ピリツン」海岸ニ於テハ前顯本無電使用規則第三條ニ基キ既ニ「ラヂオ」使用ノ許可取付ケアリタルニ付今ヤ我石油會社ニ於テ其必要トスル北樺太東海岸各港

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0604

灣ニ於ケル我船舶ノ無電使用問題ハ「オハ」港ヲ除キ大体其目的ヲ達成セリ

只「オハ」海岸ニ於ケル碇泊船舶ノ無電受信器使用ニ付テハ鎮業所ヨリノ請願ニ對シテモ容易ニ許可ヲ與ヘス今日ニ及ヒ居レルモ右ハ別ニ大ナル不便ヲ感シ居ラサル趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0695
http://www.jacar.go.jp

第七款　北樺太石油積取帝國特務艦關係問題

第一項　特務艦ノ「オハ」入港及乘組員上陸問題

ノ經緯概況

本件經緯ニ付テハ昭和八年ノ議會調書ニ於テ詳述セラレアルヲ以テ之カ重複ヲ避クル爲茲ニハ其概況ノミヲ記述スヘシ

「ソ」側ノ帝國特務艦ニ對スル取扱振

「ソ」聯邦側ハ最初ヨリ原油積取ノ爲北樺太「オハ」ヘ渡航スル帝國特務艦ニ對シ其軍艦トシテノ特權ヲ制限セントシ而モ斯ル態度ハ逐年露骨トナリ遂ニ昭和七年度ニ入ルヤ「ソ」聯邦政府ハ五月二十九日在「ソ」帝國大使館ニ對シ『商行爲ヲ行フ目的ヲ以テ「ソ」聯邦港灣ニ入港スル外國運送艦船ニ關スル特別規則』ヲ送付スルト共ニ帝國特務艦ニ對シ商船同樣ノ取扱ヲ爲サントセリ依テ我方ハ此種特務艦ニ付軍艦ノ特權ヲ主張シ右特別規則ノ適用ニ反對シタル結果「ソ」政府ハ同年七月二十二日ニ至リ帝國海軍ニ於テ「ソ」聯邦港灣ニ來航スル外國軍艦ノ爲制定セラレタル許可制度ヲ選フニ於テハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0606

外國軍艦ノ北樺太港津碇泊ニ關スル臨時特別規則ノ制定

「ソ」聯邦側ハ帝國海軍ノ輸送船ニ對シテ右制度ヲ維持スヘキ旨回答シ來リタリ

然ルニ「ソ」聯邦側ハ前記ノ通リ帝國特務艦ノ軍艦タル資格ヲ認メナカラ依然トシテ特務艦及乘組員ノ行動ヲ束縛セントスルモノノ如ク同年秋我方ニ對シ新ニ制定セラレタル「外國軍艦ノ北樺太港津碇泊ニ關スル臨時特別規則（九月二十九日附）」ヲ送付シ來リ又昭和八年ニ至リ例年ノ如ク帝國政府ヨリ「ソ」聯邦政府ニ對シ同年度ニ於ケル帝國特務艦ノ「オハ」入港ニ付承諾ヲ求メタル際右入港ニハ異議ナキモ前記特別規則遵守ノ要アル旨ヲ注意シ來リタリ

各規則適用ニ關スル日「ソ」交渉經緯

然ルニ右臨時特別規則中ニハ從來問題トナリタル乘員名簿ノ提出、上陸員ノ制限（三十名以內）、陸上行動區域ノ限定ノミナラス平服着用者ノ姓名等級等通告、要塞地外ニ對スル撮影、及「スケッチ」等ノ禁止、軍艦來訪ニ對スル手續等ノ如キ國際慣例ヲ無視セル規定多カリシヲ以テ在「ソ」大田大使ハ政府ノ訓令ニ基キ五月十七日「

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0607
http://www.jacar.go.jp

ソ」聯邦政府ニ對シ國際慣例上他ノ一般軍艦ト同樣ノ取扱ヲナスヘク斯ル各種ノ制限乃至禁止事項ノ撤廢方申入レタリ

右我方申入ニ對シ「ソ」聯邦外務人民委員部ハ七月二十二日附回答ヲ以テ前記臨時特別規則ノ制定ハ日本大使館ノ申出ニ基キ日本特務艦ニ對シ「商行爲ノ爲「ソ」聯邦港灣ニ來航スル外國軍艦ニ對スル特別規則」ヲ適用セサルコトトシタルニ基クモノニシテ右特務艦ノ「オハ」來航ニ關聯シテ生スル困難除去ヲ目的トセルモノナルコト並ニ右規則ハ國際法ノ一般規則ニ違反セルモノト看做スコトヲ得ス只現ニ生セシ誤解ヲ除去スル爲ニハ該規則ノ各條項ニ付幾分ノ註釋ヲ加フレハ足ルヘシトテ個々ノ條項ニ對スル說明ヲ爲シ來リタリ

然ルニ右「ソ」側回答ハ我方要求ノ全部ニ對シ答ヘ居ラサルノミナラス一條項（乘組員ノ名薄通知）ヲ除キ概ネ我方ノ滿足シ得サル所ナリシヲ以テ帝國政府ハ八月十日重テ在「ソ」大田大使ヲシテ「ソ」側回答ヲ反駁シ我方從來ノ要求貫徹方「ソ」政府ニ申入レシメ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0608

タリ

右我方再度ノ申入レニ對シ「ソ」聯邦外務人民委員部ハ十一月三日回答越セルモ右ハ前回々答（七月四日附）ニ補足的註釋ヲ加ヘタルモノニ過キスシテ我方主張ヲ其儘容レタルモノニハ非サリシモ昭和八年中「オハ」現場ニ於ケル「ソ」地方官憲ノ帝國特務艦ニ對スル態度ハ頗ル穩健良好ニシテ現場ニ關スル限リ特務艦側ノ要望ハ完全ニ達成セラレ何等ノ支障ヲ來ササリキ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0600
http://www.jacar.go.jp

第二項　昭和九年中「オハ」地方官憲ノ特務艦ニ對スル態度

昭和九年航海期開始ト共ニ六月二十五日最初ノ特務艦襟裳「オハ」ニ入港セリ同艦々長ハ入港手續ノ爲來艦セル「ゲ、ペ、ウ」代表等ニ對シ乘組員半舷約七十名ノ上陸及「オハ」油田見學ノ希望ヲ開陳シタルニ對シ「ソ」官憲ハ三十名以上ノ上陸ニ付テハ規則上許可シ難キ旨丁重ニ拒否シタルヲ以テ偶々右「ソ」官憲一行ト共ニ同艦ヲ往訪セル「オハ」分館主任ヨリ昨年ノ例並ニ「ソ」外務人民委員部ノ入港規則ニ關スル註釋等ヲ說明シタルモ「ゲ、ペ、ウ」ハ當方ハ何等ノ指令ヲモ接手シ居ラサルニ付茲ニテ直チニ許可スル能ハス後刻「ゲ、ペ、ウ」長官ニ問合セタル後回答スヘシトテ引取リ而モ其後長官不在ナリトカ種々ノ口實ヲ設ケテ容易ニ應諾セサリシカハ同艦長ハ昨年ノ例ニ倣フヘシトテ會社港務課ヨリ上陸人員、移動先及日時等ヲ「ソ」側ニ通報セシメタル後勝手ニ約七十名宛ノ乘組員ヲ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0610

二回ニ亘リテ上陸セシメ「オハ」油田ノ見學ヲ敢行セリ

然ルニ「ソ」側ハ昭和八年初期ノ如ク規則違反ノ調書ヲ作成スルコトモナク又「ゲ、ペ、ウ」方面或ハ「オハ」駐在外務人民委員部代表ヨリ「オハ」分館又ハ特務艦ニ對シテモ何等正式ノ抗議モナサス只「オハ」海岸「ゲ、ペ、ウ」守備隊長ヨリ會社港務課ニ對シ成ルヘク三十名以上上陸セシメサル樣艦長ニ傳達方懇願セシノミナリキ爾來隱戸、佐多及鶴見等ノ各特務艦相次テ來航シ前例ニ倣ヒテ各々其乘組員六十名乃至八十名ヲ一時ニ上陸「オハ」油田見學ヲ行ハシメタルモ「ソ」側ハ其都度例ニ依リ一應三十名以上ノ上陸ヲ拒否セルノミニテ帝國特務艦側ノナスカ儘ニ委セ居リ別ニ何等ノ掣肘ヲ加フルコトナク宛モ默認ノ如キ態度ヲ持シ居リタル爲昭和九年航海期中ハ現場ニ關スル限リ何等ノ問題モ起ラス平穩無事ナリキ

只在本邦「ソ」聯邦大使館參事官ハ七月四日及同十二日ノ兩回ニ亘リ我外務省東鄕歐亞局長ヲ來訪他問題ト共ニ帝國特務艦ノ違反行爲ヲ抗議セルコトアリシニ同局長ハ國際慣例上ノ軍艦ノ特權ヲ主張シ可然應酬シ置キタル趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－06－1

第八款　「ソ」鐵道局ノ我利金鑛區內土地收用問題

北樺太唯一ノ國有鐵道タル「オハ」ー「モスカリオ」鐵道ハ「オハ」「ソ」側石油「トラスト」第十七號鑛區ヲ基點トシ我利權鑛區內（即チ第十六號、第二十一號及第二十六號鑛區ノ一部）ヲ通過シテ西海岸「モスカリオ」港ニ向ヒ居レル處右鐵道ノ我利權鑛區通過ニ關シテハ其建設當時我石油會社及「ソ」當該官憲トノ間ニ後述ノ如ク右鐵道用土地收用ニ關スル協定成立シ居レル次第ナリ

然ルニ「オハ」「ソ」鐵道局ハ昭和八年秋頃ヨリ線路ニ平行シテ隣接セル我方利權第二十一號鑛區內ニ多數ノ鐵道所屬家屋ヲ建設ヲ始メ昭和九年當初ニハ大体之カ竣工ヲ見タル處我石油會社ハ其頃ニ至リ漸ク之ニ氣付キタルニ付直チニ一月十二日附書面ヲ以テ「オハ」執行委員會ニ對シ我利權鑛區內ニ於テ無斷多數ノ家屋ヲ建設シ其結果我採掘鑛區ノ地域ヲ縮少シ完全ナル作業ヲ制限セシムルニ至リタル不法手段ヲ嚴重抗議シ急速該建物ノ鑛區外移轉方要求シ更ニ三月

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0612

十四日之ヲ督促セリ

右ニ對シ執行委員會ヨリハ三月十九日附書面ヲ以テ該建物ハ交通人民委員部カ其收用地域内ニ於テ建設セシモノナルコトヲ通知スルト共ニ會社側第二十一號鑛區今後ノ開發ヲ考慮シ會社事業計畫ニ依ル同鑛區内ニ企劃セラルル作業ノ種類及期限等通知アリタキ旨回答越セリ

依テ會社側ニ於テハ右鐵道用土地收用ニ關シ㈠一九三二年二月二十六日莫斯科ニ於テ該鐵道ノ利權鑛區内通過ニ關シ會社代表、「ソ」側中央利權委員會及交通人民委員部代表間ニ締結セラレタル協定議定書ニ依レハ利權地域内ニテ交通人民委員部ノ收用スル地帶ハ埋藏物ノ完全ナル開發ヲ期スル爲鐵道設計及建設ノ例外的最少限度ノ「ノルマ」ヲ適用シ鐵道ノ通過スル利權鑛區内線路兩側ヘ夫々八米乃至十五米ニ限定セラレ居ルコト㈡加フルニ一九二九年三月四日附「ソ」聯邦土地收用法ニ依レハ利權契約ニ依リ使用中ナル地域ノ收用

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0613

ハ「ソ」聯邦又ハ露西亞共和國政府ノ特別ノ決定ニ依リテノミ之ヲ行フコトヲ得トナリ居ルコト㈢依テ本件ニ關スル「オハ」鐵道局ノ行爲ハ右土地收用法規定ノ手續ヲ履行セス且前記中央協定ノ趣旨ヲモ無視セルモノナリトノ趣旨ニ基キ四月十三日附書面ヲ以テ執行委員會來示ノ見解ヲ反駁シ更ニ八月三日前記利權鑛區內鐵道通過ニ關スル日「ソ」協定議定書寫ヲ送付スルト共ニ同議定書ニ依リテ明カナル如ク利權鑛區ニ於テ交通人民委員部ノ爲收用セラルヘキ地域ハ該鐵道カ同鑛區東兩隅ヲ通過スル場所ノ鐵道ニ沿フ規定幅員（卽チ八米乃至十五米）ノ土地ニ限定セラルヘキモノナル旨ヲ指摘シ「ソ」側ノ注意ヲ喚喚シ其後モ嚴重抗議中ナリシ處昭和九年十二月ニ至リ「オハ」市「ソヴイエト」ヨリ東部所在ノ三棟ハ明年四月一日迄ニ又他ハ同六月十三日迄ニ撤去スヘキ旨在「オハ」會社鑛業所ニ通知越タル趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0614

第九款　會社々員ノ大陸旅行禁止問題

我石油利權企業ノ本據地「オハ」及日本間ノ航海終了期（十月末）ヨリ航海開始期（六月初旬）ニ至ル冬期間ノ通信ハ十一月乃至十二月及自三月末至四月末間ノ結氷及解氷期ニ依ル一時的通信杜絶以外ハ南北樺太國境ニ於ケル日「ソ」郵便交換及哈府、亞港「オハ」航空路ニ依ル郵便飛行ニ依リテ行ハレ居ル處「オハ」亞港間ノ冬季交通通信狀態頗ル不良ナル爲右國境郵便交換ヲ利用スルニモ種々ノ不便アリ又「オハ」及「ソ」領大陸間ノ郵便飛行遞送狀況モ昭和八、九年ノ冬季中ハ極メテ不良ナリシ爲之等通信機關ヲ利用スルモ安全且迅速ナル日本宛書面ノ發送ハ到底期待シ得サル實狀ナリキ依テ我石油會社「オハ」鑛業所ニ於テハ前年ノ例ニ習ヒ年度末迄ニ是非共本社ニ提出ヲ要スル決算其他重要書類遞送ノ爲旅客郵便飛行機ノ都合ニ依リ哈府又ハ亞港經由社員ヲ東京ニ出張セシメントシ二月初旬「オハ」「ゲ・ペ・ウ」ニ右旅行許可方出願シ其後モ再三督促セシ

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0615

處三月一日ニ至リ漸ク「ゲ・ペ・ウ」ヨリ本件ニ關シ哈府及亞港當局ニ夫々問合セタル結果哈府ヨリハ大陸經由（即チ尼港ー哈府經由）ノ旅行ハ絶對之ヲ禁止スヘシトノ指令アリ又亞港ヨリハ未タニ回電ニ接セサル旨回答越セル趣ナリ

依テ會社鑛業所ヨリ在「オハ」帝國總領事館分館主任ニ對シ「ソ」側ニ可然斡旋方申出アリタルニ付同主任ハ同月三日同地駐在外務部代表ヲ往訪シ該地方ニ於ケル通信狀態ノ極メテ不良ナル實狀ヲ述ヘ且日「ソ」基本條約第四條ヲ指摘シ故意ニ旅行ノ自由ヲ禁止スルノ不都合ヲ抗議シタル處同代表ハ右ハ初耳ナレハ何レ取調ヘノ上回答スヘキ旨約シタリ

然ルニ交通杜絶期切迫セル爲右社員ノ出張ヲ急キ居レル鑛業所ニ於テハ一先哈府經由旅行ヲ斷念シ「カタングリー」行權便アルヲ幸ヒ之ヲ利用シ亞港經由出張セシメントシ至急之カ許可方「ゲ・ペ・ウ」ニ再度申出テタリ一方我分館主任モ十日再ヒ外務部代表及執行委員

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0616

會議長ヲ往訪シ將來ノコトモアレハ主義上大陸旅行禁止ノ不當ナルコトヲ飽迄抗議シ右禁止理由書面ヲ以テ回答方申入ルルト共ニ鑛業所ノ希望ヲ説明シ不取敢大至急亞港行キノ許可方交渉シタル處同代表ハ大陸旅行禁止理由ノ説明ハ窮シテ答ヘス後刻書面回答方應諾スルト共ニ亞港行キハ之ヲ許可スルコトニ決定シタル旨語リタリ

然ルニ同日午後「ゲ・ペ・ウ」ノ發給セル亞港行許可書ニハ飛行機ニ限ルヘキ旨明記シアリ橇旅行ハ之ヲ許可セスト稱シ外務部代表ノ言明ト相違シ居リタルモ同「ゲ・ペ・ウ」及飛行隊ノ説明ニ依レハ十二日及十五日ニ亞港行飛行便アリ殊ニ飛行隊ニ於テハ十五日ノ分ニ鑛業所社員ノ爲坐席ヲ豫定シ置クヘシトノ言質アリタルニ付斯ル幸便アラハ之ニ越シタルコトナキヲ以テ鑛業所ニ於テモ右ニ決定セリ

然ルニ其後天候惡ク豫定期日ニモ亞港行飛行機飛來セス而モ氣溫高キ爲北樺太内ノ橇旅行モ困難トナリ又飛行機ノ飛行モ近ク中止セラ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－061－7
http://www.jacar.go.jp

ルヘキ形勢トナリタルヲ以テ鑛業所ニ於テハ漸ク事態ヲ憂慮シ初ムルニ至レリ依テ分館主任ハ二十二日執行委員會議長及外務部代表ヲ往訪シ嚴重抗議スルト共ニ種々交渉シタル結果「ソ」側モ當方要求ヲ應諾シ亞港、哈府行キ何レナリトモ今後第一回飛來ノ飛行機ニ便乘方許可スルニ至レリ

斯クテ鑛業所社員ハ二十九日飛來ノ哈府行飛行機ニ便乘シ東京向ケ出發セリ

茲ニ於テ社員出張ノ件ハ一段落ヲ見タルカ敍上「ソ」側ノ態度ニ依リテモ明カナル如ク「ソ」側ニ於テハ時節柄大陸方面ハ勿論北樺太島内ニ於ケル日本人ノ旅行ヲ極度ニ警戒シ如何ニ神經過敏ニ陷リ居ルヤヲ窺知シ得ラルヘシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0618

第十款　「ソ」勞働監督官ノ我利權企業壓迫問題

第一項　「エハビ」試掘鑛區ニ於ケル勞働禁止問題

石油會社カ利權契約第三十一條ニ基キ浦潮ニ於テ傭入セル昭和九年度季節「ソ」勞働者約一千名ハ七月一日一時ニ「オハ」（海岸）ニ到着シタルヲ以テ會社ハ不取敢「エハビ」試掘鑛區行勞働者百五十三名ヲ直チニ同地（約九粁アリ）ニ送込マントシタル處勞働監督官「アブラーモフ」ハ是ヨリ自身「エハビ」ニ赴キ勞働者收容ノ幕舍並ニ附帶設備等檢査スヘキニ付右勞働者ノ送込ハ暫ク中止シ一先ツ「オハ」市ニ收容スヘキ旨命シタリ然ルニ會社側ニ於テハ宿舍並ニ食料品等ノ配給其他種々ノ關係上一旦之ヲ「オハ」ニ收容シ更ニ「エハビ」ニ送込ムカ如キハ事實問題トシテ頗ル困難ナル事情アリ加之勞働者カ來航シテ初テ幕舍等ノ檢査ニ取掛ルカ如キハ甚シキ不穩當ノ措置ナルニ付之カ「エハビ」直行方懇願セルモ頑迷ニシテ會社ニ反感ヲ有スル「アブラーモフ」ハ頑トシテ應セス遂ニ檢査ノ爲技

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0610
http://www.jacar.go.jp

術監督官ト共ニ「エハビ」ニ赴ケリ依テ會社側モ窮餘ノ策トシテ勞働監督官（以下勞監ト略稱ス）等ノ出發後約一時間ヲ經テ右勞働者ヲ「エハビ」ニ送リ既設幕舍ニ收容セリ

依テ勞監ハ命ニ背キタリトテ激怒シ且幕舍及附帶設備ヲ檢査シタル後右ハ不完全ニシテ到底勞働者ノ居住ニ適セスト稱シ之カ改築、模様替ヘ、新設備等十三ヶ條數十項目ヨリ成ル命令ヲ發スルト共ニ右履行後ニアラサレハ勞働者ヲ收容スヘカラス直チニ「オハ」市ニ送還セシムヘキ旨嚴命ヲ下シテ引揚ケタリ

右命令中ニハ多大ノ經費、勞力及時日ヲ要スヘキ事項多ク而モ同地カ試掘地ニシテ且之等季節勞働者ノ作業期間モ僅カ三ヶ月ナルヲ以テ勞監命令ノ如キ殆ト常設的設備ハ其必要モナク又事實不可能ナルニ鑑ミ會社ハ之等ノ點ニ付極力諒解ヲ求メタルモ勞監ハ更ニ會社ノ言ニ耳ヲ藉サス數日後再ヒ「エハビ」ニ赴キ命令不履行ノ故ヲ以テ勞働者ニ對スル作業中止並ニ即時「オハ」送還ヲ命シタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0630
http://www.jacar.go.jp

茲ニ於テ會社モ策ノ施シ様ナク勞監ノ過激手段緩和交渉方在「オハ」總領事館分館主任ニ依頼アリタルヲ以テ同主任ハ十五日「オハ」市「ソヴイエト」議長及同地駐在外務部代表ヲ往訪シ勞監「ア」ノ不當措置ヲ述ヘ斯ル過激命令ノ撤回並ニ單ニ「エハビ」事件ノミナラス全般的ニ我石油會社ノ事業經營ヲ不可能ナラシムルカ如キ「ア」ノ態度緩和方斡旋アリタキ旨懇談シタル結果翌日ニ至リ會社ニ對シ作業中止及勞働者ノ「オハ」送還ハ一時之ヲ保留スヘキ旨勞監ヨリ通知アリタル趣ナリ

其後市「ソヴイエト」議長ノ提言ニ基キ同人、外務部代表及分館主任列席ノ上「エハビ」命令事項ニ關スル會社及勞監ノ各意見聽取及本件妥協方協議シタルモ重要事項ニ對スル會社及勞監ノ見解全然背致シ居ル爲遂ニ妥結ニ至ラス重要事項ニ付テハ分館主任及外務部代表ノ實地視察ノ結果ヲ待チ微細事項ハ勞監及會社間ノ再審議ニ移スコトトシ作業中止等ノ過激手段ハ執ラサルコトニ決定セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0631

其後分館主任等ノ「エハビ」視察ハ天候其他ノ關係モアリ且實際ニハ其必要ヲ認メサリシ爲實現セラレス又會社及勞監間ニ於テモ再審議ノ開始ヲ見サリシカ「エハビ」ニ於テハ無事作業ヲ繼續シ居レリ

第二項　九年度櫓建設計畫ニ關スル勞技監ノ不當態度

九年度事業計畫ニ基ク杭井櫓建設着手出願ハ四月三日手續シ昭和八年勞技監ノ確認ヲ受ケタル準備型櫓ヲ基礎トシテ右標準型設計ニ依ルト共ニ櫓建設位置ニ就テハ諸建物トノ間隔等總テ法規ヲ遵守シテ詳細屆出タルニ對シ勞監署ハ審議上何等關係ナキ杭井掘鑿ニ對スル鑛監ノ許可提出方ヲ要求シ又前勞技監ノ確認アル櫓設計ニ對シテ殊更ニ自己ノ見解ニ基ク理由ヲ付シテ再設計ヲ強要シ會社ノ條理ヲ盡シタル釋明ハ更ニ聞入レサルノミナラス會社ニ於テ止ムナク先方ノ要求ニ應スルニ及テ俄ニ「カタングリ」出張ヲ申出テ殆ト一ケ月ニ亘リテ櫓ノ確認ヲ停滯セシメ會社側ノ督促懇願ニモ不拘確認迄建設

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0633
http://www.jacar.go.jp

着手ヲ禁止スル等更ニ協調的態度ナク漸ク七月中旬ニ至リテ決定ヲ與ヘ來レルモ法規上差支ナキ建物及櫓ノ間隔ヲ問題トシテ尚モ櫓建設ヲ許可セサル等甚シキ越權ヲ敢テシ遂ニ問題ノ解決ヲ中央ニ移ス ノ止ムナキニ至ラシメタルカ結局願書提出ヨリ確認迄百日以上ヲ要シタル處之ヲ例年通リ一ケ月以内ニ決定ヲ得タル場合ニ比スレハ櫓大工八百五十人工ニ手違ヲ生シ其間六基分ノ櫓ヲ建設シ得ヘカリシモノニテ掘鑿作業ニ蹉跌ヲ生シ新掘井開坑遲延ニ依ル產油不足量八千余頓ト概算セラル本件勞監ノ不當措置ニ付テハ在莫斯科會社出張員ヨリ「ソ」國政府ニ嚴重抗ギ中ナリ

敍上兩事件ニテモ明カナル如ク勞働監督官「アブラーモフ」（勞働者出身）ハ極メテ頑迷固陋非常識ナル人物ナルカ更ニ同人ヲ惡化セシメタルハ曾テ勞働監督署カ石油勞働者組合ニ隷屬セシ頃會社側ハ問題アル毎ニ同組合長ト折衝シ大体妥協ノ途ヲ講シ居リ勞監ヲ相手

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0623
http://www.jacar.go.jp

トセサリシコトニ基因スヘシ故ニ昭和九年四月勞働監督署カ組合ヨリ獨立シ中央利權委員會直屬トナルヤ從來會社側カ同人ヲ無視セシコトニ不滿ヲ抱キ居リタル反動直チニ顯レ其性格ト相俟テ會社壓迫ニ猪突シ初メ過激ナル要求、非常識ナル命令等ヲ亂發シ會社ヲシテ啞然タラシムルニ至リタリ

例ヘハ前述「エハビ」事件ノ如キ或ハ六月初旬會社「カタングリー」支所ニ檢査ニ赴キ僅カ數日間ノ滯在中ニ設備ノ改築、新設模樣替等ニ關スル二百數十項ニ亘ル命令ヲ發シ最短期間ニ之カ履行ヲ命シテ引揚ケタルカ如キ其他「オハ」ニ於テモ此種命令等山積シ居レルヲ見ルモ如何ニ其甚シキカヲ窺知シ得ラルヘシ

斯ル狀態ナルヲ以テ同人カ勞監タル以上到底我利權企業ノ順調ナル事業經營ハ不可能ナル狀態ニ鑑ミ會社側ハ「ソ」中央當局ニ請願シ勞監「ア」ノ更迭方交渉シタル結果昭和九年十月末「ズブコフ」ナル者莫斯科ヨリ來「オ」シ「ア」ニ代リテ勞監ニ就任セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0634
http://www.jacar.go.jp

第十一款　石油企業勞働者組合中央委員會ノ分割

九月五日莫斯科ニテ開催セラレタル「ソ」聯邦職業組合中央會議第四回總會ニ於テ職業組合ヲ産業ノ現勢ニ適應スル樣改組スルノ問題討議セラレタル結果各種企業ノ職業組合中央委員會ヲ分割シテ當該企業ノ中心地方ニ置キ組合ト企業トノ關係ヲ密接ナラシムル事トナリ石油關係ニ於テハ從來ノ石油企業勞働者組合中央委員會ヲ左記ノ三部ニ分割セリ

イ、カフカズ地方石油企業勞働者組合委員會

ロ、東部地方石油企業勞働者組合委員會

ハ、製油企業勞働者組合委員會

北樺太ニ於ケル石油企業ハ右ノ内第二ノ委員會ニ屬スルモノナル處右委員會ハ「ウフワ」（「ウラル」）ニ置カルル事トナリタル爲莫斯科ニハ石油職業組合中央委員會無キコトトナリ交渉上多大ノ不便ヲ生スベキコトトナレル爲石油會社ニテハ中央委員一名ノ莫斯科駐在方ニ付交渉シタル結果十月下旬右實施ノ運トナレリ

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0635

第十二款　「ソ」聯勞働人民委員部廢止ニ伴フ勞監署所屬問題

昭和八年六月二十三日「ソ」政府決定ニ依リ「ソ」聯邦勞働人民委員部及其地方機關全部（社會保險機關ヲモ含ム）ヲ中央並ニ地方ニ於テ全聯邦職業組合中央委員會ノ機關ニ合併シ同委員會ヲシテ勞働人民委員部及其機關ノ任務ヲ執行セシムルコトトナリタルガ其結果トシテ石油會社關係トシテハ從來勞働人民委員部所屬ナリシ社會保險部及勞監署ガ組合ノ機關トシテ會社ト交渉ヲ有スルコトトナレルガ此ノ如キハ從來勞働法並ニ團体契約ノ解釋上事毎ニ會社ニ反對シ作業ノ進捗ヲ妨グルコト甚シカリシ會社勞働組合（「プロムコム」）カ會社ノ勞働及技術方面ニ於ケル直接ノ監督權ヲ兼有スルニ至ルモノニシテ其態度益々横暴トナル可キヲ虞レ會社ハ莫斯科出張員ヲシテソ側當局ニ對シ「政府機關ニ非サル機關ノ監督ヲ受クル能ハザルニ依リ我利權ノ爲ニ特別ノ政府監督機關ヲ設置セラレタキ」旨ノ抗

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0636
http://www.jacar.go.jp

議ヲ提出セシメタルガ「ソ」側當局ハ利權企業モ勞働法及團体契約ニ基キ行動スルモノナル以上組合會社間ノ關係密接トナリ企業經營上好都合ナリト稱シテ讓ラズ一方「オハ」現地ニ於ケル改組ハ着々行ハレ十一月迄ニハ社會保險部及勞監署トモ「プロムコム」内ニ新設セラルルニ至レルガ其後ノ情勢ハ全ク會社側ノ豫期ニ反シ「プロムコム」ノ態度ハ勞監署歸屬後著ルシク好意的妥協的トナリタル爲寧ロ諸般ニ亘リ從前ヨリ好都合ニ進捗シ從ツテ會社ノ抗議モ其儘トナリ居タル處昭和九年四月下旬ニ至リ突然勞働監督署ハ「プロムコム」ヨリ分離シ中央利權委員會ニ直屬スルコトトナリタル旨「ソ」側ヨリ會社ニ通知アリ之ニテ會社側ハ其ノ所期ノ主張ヲ貫徹セル次第ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0637

第十三款　北樺太石油會社利權企業地向輸入物資並ニ之カ賣價認定問題

第一項　概說

北樺太石油會社ハ利權契約ニ基キ同社勞働者及勤務員ニ對スル供給物資ヲ駐日「ソ」聯邦通商代表ノ輸入許可ヲ取付ケタル上各利權企業地ニ輸入又之カ現地販賣價格ハ通商代表ノ輸入許可證附屬輸入品目錄表示ノ露貨建「サハリン」「ロ」「ヒ」値段ニ一定率ノ諸掛ヲ加算シタル額ヲ以テ定メ「オハ」鑛山監督官ノ認可ヲ得テ販賣シ居レル次第ナリ

然ルニ「ソ」側ハ從來右輸入物資ノ品種及數量ヲ削減セント試ミタルコト再三アリシカ其都度會社側ノ強硬ナル反對ニ遭ヒ失敗シ居リタル處現地鑛山監督官ハ昭和八年八月重工業人民委員部ノ指令ナリトテ右輸入物資値段ニ圓對留ノ公定相場ヲ適用スヘキ旨命令シ來リタル爲相當紛糾ヲ招キタルモ結局在「オハ」帝國總領事館分館主任

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0638
http://www.jacar.go.jp

ノ斡旋等モアリテ會社側要望通リ從來ノ取扱ヲ繼續スルコトトナリ一先解決シタリ

然ルニ昭和九年當初再ヒ輸入物資ノ削減並ニ賣價認定問題再燃シ「ソ」現地官憲ハ輸入物資ノ數量及品種ニ對シ前例ナキ大削減ヲ加ヘ來ルト共ニ賣價認定ハ其實價ニ準據スヘキモノナリトテ實際買入價格ヲ確證スヘキ仕切書ノ提示ヲ要求シ來リ延テハ圓對留ノ換算率問題ニ迄波及セントスル惧アリ且今回ハ相當强硬ニ主張シ容易ニ解決ヲ見サリシカ結局莫斯科ニ於ケル「ソ」中央當局及會社同地出張員間ノ交渉ニ移サレ折衝ヲ重ネタル結果大体(一)輸入物資總量ハ會社勞務者ニ支拂フヘキ賃銀ノ總額ヲ限度トスルコト(二)賣價認定ノ基礎タル仕切書提出ノ代リトシテ輸入品目錄ニ東京府公設市場物價表ヲ添付スルコト(三)輸入目錄記載ノ物價ハ從來通留建ヲ以テ表示スルコトニ大体主義的協定纒リタリ

尙詳細ハ項ヲ分チ左ニ記述スヘシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0630
http://www.jacar.go.jp

第二項　利權企業地向物資輸入問題

石油會社ノ北樺太各企業地ニ輸入スル同社從業員用食料及日用品（會社ニテ之ヲ酒保品ト稱ス）ノ數量ハ年々莫大ノ金額（約二百萬圓弱）ニ達シ居レル狀態ナリ而シテ利權契約ニ據レハ右輸入ハ駐日「ソ」聯邦通商代表ノ輸入許可サヘアラハ之ヲ爲シ得ヘキ立前トナリ居レルモ實際上ノ手續ハ豫メ會社「オハ」鑛業所ヨリ當該年度ノ酒保品豫定輸入目錄ヲ現地鑛山監督官ニ提示シ之カ審査確認ヲ受ケタルモノヲ通商代表ニ提出輸入許可ヲ得テ後企業地ニ輸入シ居レル次第ナリ

然ルニ會社「オハ」鑛業所カ例年通リ昭和九年三月同年度酒保品輸入目錄ヲ「オハ」鑛山監督官ニ提出之カ確認ヲ求メタル處同監督官ハ會社申請品目ヨリ六十六品ヲ全然削除シ且數品ヲ除ク外全部ニ亘リテ其數量ニ著シキ削減ヲ加ヘ來レリ依テ會社側ニ於テハ斯ル前例ナキ大削減ヲ命セラルルトキハ到底利權契約及團体契約ニ基ク供給

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0630

ヲモ實行シ難キ旨ヲ述ヘ計畫通リノ輸入確認方種々懇望セシモ鑛山監督官ハ從來ノ酒保品輸入ハ其數量多キニ過キ右酒保品賣上總額カ勞働賃銀總支拂額ヲ超過シ居レル實狀ヲ指摘シ右削除ハ支拂勞銀ヨリ計算セル購賣力ヲ基準トシタルモノナリトテ會社側ノ要望ヲ峻拒シ且審査目錄ニ據ルヘキ旨命シタリ

茲ニ於テ會社「オハ」鑛業所ハ航海期ノ切迫並ニ本件ノ現地解決不可能ナルニ鑑ミ之カ交渉ヲ東京（本社及駐日「ソ」聯邦通商代表部間）及莫斯科（會社出張員及「ソ」中央當局間）ニ移牒シテ現地交渉ヲ打切リタリ

斯クテ莫斯科交渉ノ結果六月ニ至リ「酒保品輸入總量ハ會社勞務者ニ支拂ハルヘキ賃銀總額ヲ限度トシテ計畫セラルヘキコト」ニ決定セラレ之カ細目協定ハ東京ニ於テ行フコトトナリタルニ付其後東京ニ於テ會社本社及通商代表部間ニ之カ協議開始セラレタルニ會社及鑛山監督官報告ノ賃銀總額ニ付若干ノ相違アリテ未タ最後的的妥結

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0631
http://www.jacar.go.jp

ニ到達セサル越ナルモ「ソ」側提示ノ輸入總額ニ依ルモ別ニ會社物資輸入量ニ支障ヲ及ホス程度ニ非サル越ニ付本問題モ大体ニ於テ解決シタルモノト見做スコトヲ得ヘシ

第三項　輸入物資ノ賣價認定問題

會社ノ輸入スル酒保品ニ對シ留公定相場適用及賣價認定問題ハ昭和八年ニモ惹起セシカ大体解決ヲ見タル狀態ナリシ處昭和九年ニ入リ又再發紛糾ヲ見ルニ至リタリ

即チ四月七日突然「オハ」鑛山監督官ハ輸入酒保品ノ現地賣價ハ利權契約ニ基キ其實價ニ準據スヘキモノナルニ付實際買入價格ヲ確認シ得ヘキ計算書ヲ提出スヘキ旨會社「オハ」鑛業所ニ通告シ來リタリ依テ會社側ハ前年ト同樣ノ根據即チ物資及之カ購入條件多種多樣ニシテ仕切書ノ適時提出ハ技術上不可能ナルコト並ニ賣價認定ハ從來ノ手續通リ輸入許可書ト共ニ輸入品目錄ニ於テ「ソ」聯邦通商代表ノ確認セル「サハリン」ロ「ヲ」値段ヲ基礎トセラルヘキコトノ二

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0633
http://www.jacar.go.jp

論據ヲ以テ應酬シタルモ鑛山監督官ハ昨年來駐日通商代表自ラモ言明セル如ク同代表ハ單ニ北樺太ニ輸入セラルベキ酒保品ノ數量及種目ヲ確認セルノミニテ其現地ニ於ケル賣價ハ鑛山監督官ニ於テ認定スヘキモノナルコト利權契約ノ明示スル所ナリ從テ利權契約違反タル現行認可手續ハ絶對容認スル能ハストノ強硬態度ヲ固執シテ讓ラサリシカハ會社本社ニ於テハ一方會社莫斯科出張員ヲシテ「ソ」中央當局ト交渉セシムルト同時ニ他方駐日通商代表トモ折衝シタル處右通商代表モ鑛山監督官ト同樣ノ見解ヲ固執シ居レル爲容易ニ解決ノ見込付カス而モ「ソ」側ノ主張モ相當論據アルニ鑑ミ會社側ハ是非トモ右仕切書必要ナルニ於テハ東京府公設市場物價表ヲ帝國當該官廳ノ認證ヲ得テ提出スルモ可ナル旨妥協案ヲ出シタルニ對シ通商代表ハ莫斯科ニ問合ハスヘキ旨約シタリ

斯クテ莫斯科ニ於テモ會社出張員及「ソ」中央當局トノ間ニ本件交渉セラレタル結果六月ニ至リ(一)賣價認定ノ基礎タル仕切書ノ代リニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0633

東京府公設市場物價表ヲ輸入品目錄ニ添付スルコト(二)輸入品目錄ニ記載ノ物價ハ從來通リ留建ヲ以テ表示スルコトニ協定成立シ爾來通商代表ハ各航海毎ニ「其輸入スル物資ノ價格ハ東京府公設市場物價表ニ依リ確認セル」旨ノ電報ヲ現地鑛山監督官ニ打電シ同監督官ハ右電報接受後初テ賣價認可ヲ與ヘ居ル實狀ナルモ右通商代表ノ打電ハ常ニ遲レ勝チナル爲種々不便ヲ生スルコトアルニ付目下之カ不便除去方東京ニ於テ交渉繼續中ノ趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0634

第十四款　宿舍明渡シニ關スル訴訟

「ソ」側石油「トラスト」對北樺太石油會社訴訟

豫テ「ソ」側石油「トラスト」「サハリンネフチ」ハ「オハ」地方裁判所ニ對シ同「トラスト」ト勞働關係ヲ有セサル爲「トラスト」宿舍ヲ追出サルヘキ北樺太石油會社勞働者十一名ニ對シ宿舍提供方我石油會社ヲ相手トシテ提訴中ナリシ處昭和九年四月十四日公開裁判開廷セラレタル結果

(一)「トラスト」ヨリ指摘セル勞働者中北樺太石油會社ト關係ヲ有スルモノハ徒弟、鑛手、鍛工及左官ノ四名ノミニシテ利權者カ之等ニ宿舍ヲ提供スル問題ハ單ニ保障狀ニ依ル勞働者組合及會社間ノ協定ニ依リ兩當事者間ニ於テノミ調整セラルヘキモノナリ

而モ右ノ中徒弟ハ「トラスト」ニ作業中ノ父ト居住シ居リ他ノ三名モ「トラスト」ニ於テ宿舍ヲ利用スル權利アル者ノ好

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0635

意ニ依リ同人等ノ部屋ニ同居シ居レルモノナリ

(二) 又他ノ四名ハ利權企業石油勞働者組合所屬ノ附帶企業ニ從事セル勞働者ニシテ同組合ハ之等ニ宿舍ヲ提供スルノ義務ナク況ンヤ利權者ニ於テオヤ而シテ國家卽チ現在ノ場合地方執行委員會等ニ宿舍ノ餘猶ナキ爲航海開始期迄ハ之等ヲ收容スルコト不可能ナリ

(三) 一名ハ假令會社ノ馬夫タリト雖モ「トラスト」ヨリ宿舍提供ヲ受ケ居ル工場附屬學校ニ作業中ノ妻及製材所勤務樣ノ娘ト共ニ同居シ居レルモノナリ

(四) 一名ハ既ニ立退キタルヲ以テ問題ハ自ラ解消セリ

(五) 北樺太石油會社ヨリ提出セラレタル名簿ニ依レハ同社勞務者中廿八家族ハ其家族員カ他ノ國營企業ニ勤務シ居レルニ付會社關係勞務者ヲ「トラスト」宿舍ヨリ追出スハ反訴提起ノ根據ヲ爲スモノナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0636

トノ理由ニ基キ裁判所ハ提訴者ノ要求ハ根據ナキモノト看做シ民事訴訟法第一七六條ニ基キ本訴訟ヲ却下セリ

二、我石油會社ノ解雇勞働者ニ對スル宿舍立退キ訴訟

我石油會社ニ於テハ豫テ解雇セル八名ノ「ソ」聯邦勞働者ニ對シ再三其宿舍立退キヲ要求セルモ更ニ應スル模樣ナカリシ爲已ムナク「オハ」地方人民裁判所ニ對シ右宿舍明渡シニ關スル訴訟ヲ提起セシ處四月十八日公開裁判ノ結果一名ヲ除キタル外全部ノ宿舍明渡ノ判決アリテ會社側ノ要求ハ殆ト達成セラレタルモ前記一名ニ關シテハ同月十九日更ニ「サハリン」州裁判所ニ控訴セリ右ニ對シ其後同州裁判所ヨリハ會社側ノ申立テニ法的根據アルニ付「オハ」地方人民裁判所ニ之カ再審ヲ行フヘキ旨ノ決定アリタル趣ナルモ「オハ」ニ於テハ未タニ裁判開廷セラレサル趣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0637
http://www.jacar.go.jp

本問題ニ關スル我方及「ソ」側ノ見解

第十五款　北樺太利權財產關係問題

第一項　石油利權企業財產ノ歸屬問題

一、北樺太保障占領當時我方ニ於テ同地油田試掘ノ爲投資設備シタル財產ハ其投資關係ヨリ見テ帝國政府（海軍省）及北辰會ノ出資設備セルモノ其大部分ヲ占メ居ル處「ソ」聯邦側ハ北京交渉ニ於テモ將又利權契約締結交渉ニ於テモ此種財產カ工業及鑛業企業ノ國有ニ關スル法令ニ依リ全部「ソ」聯邦ノ所有ニ歸セルモノナリトノ見解ヲ主張シ我方ノ所有權ヲ承認セサリシ爲右財產歸屬問題ハ何等解決セラルルコトナクシテ利權契約ノ締結ヲ見タル次第ナリ然ルニ其後「ソ」側ハ同國政府財產ニシテ利權者ノ使用ニ供セラルルモノニ對シテハ利權者ニ於テ右財產評價額ノ四%ノ使用料ヲ支拂フヘシトノ利權契約ノ規定ニ基キ「ソ」側財產ノ引渡ヲ行フ爲右ニ關スル引渡調書及評價調書ニ署名方我方當業者ニ迫リ來リタルヲ以テ帝國政府ニ於テハ右企業財

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0638

産所有權カ「ソ」政府ニ歸屬スヘキ理由ナシトノ見解ヲ基礎トスルモ已ムヲ得サル場合ハ實際的見地ヨリ從來我方カ施設シタル財産ニシテ今後引續キ利權者ニ於テ使用セントスルモノニ付テハ利權契約締結後當業者ニ於テ新設スル財産ト同一ノ取扱（使用料ハ勿論支拂ハス）ヲ受クヘキコトニ取極ムル方針ヲ以テ大正十五年十二月以來「ソ」當局ト交渉シ來リタリ

莫斯科ニ於ケル交渉經過

二、而シテ右我方申入レニ對シ最初「ソ」側ハ從來ノ見解ヲ固執シ居リタルモ其後即チ昭和三年七月在「ソ」帝國大使館及「ソ」當局間ノ一般財産歸屬問題ニ關スル審議ノ結果「ソ」側ハ幾分其主張ヲ緩和シ來リ次テ昭和五年二月ニ至リ「ソ」側ハ私見トシテ法人又ハ組合タル當該財産關係者カ日「ソ」何レニ登錄ヲ爲シアルヤニ依リテ財産ノ歸屬ヲ決スヘシトノ意嚮ヲ洩スニ至レリ

一方我方關係官廳及當業者ニ於テハ從來通出資關係ニ依リ財産

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0630
http://www.jacar.go.jp

所屬ノ決定方ヲ希望シ居ル關係アリタルヲ以テ帝國政府ハ(一)北樺太保障占領當時ノ事業關係財産中(イ)日本政府ノ出資セル財産(ロ)北辰會三菱等日本企業ノ單獨出資セル財産及露國人ヨリ買收セル財産(ハ)日露共同事業關係財産中日本側出資ニ依リ設備シタルモノ及初メ露側ノ出資設備シタルモノヲ其後日本側ニ於テ加工增設其他ノ爲出資シ其經濟的價値ヲ著シク增大セシメタルモノニ付我方所有權ヲ認メシムルト共ニ(二)前記共同事業關係財産中日本側現在ノ利權事業遂行上關係ナキモノ殊ニ現在「ソ」側ニ於テ使用中ノモノハ我方ニ於テ互讓的交渉ニ應スル用意アルコトヲ示シ尙(三)右二點ニ關シ「ソ」側ニ於テ異議ナキニ於テハ我當業者ト「ソ」地方官憲トノ間ニ財産ノ區別、評價、使用料額ノ決定其他ノ爲細目交渉ヲ開始セシムルコトトシ昭和五年五月以來在「ソ」聯邦帝國大使ニ於テ右我方々針ニ從ヒ「ソ」當局ト懇談ヲ重ネタルカ「ソ」側ハ財産歸屬問題ハ利權契約規定

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0642

ノ範圍内ノ問題ニシテ從テ利權者ト「ソ」當局トノ間ニ於テ交渉セラレサルヘカラサルモノナリトノ主張ヲ固持シ我方トノ外交々渉ヲ回避シテ今日ニ及ヒ居レリ

三、「ソ」側ノ不法措置

此間卽チ昭和七年一月一日「ソ」地方官憲ハ我石油會社ニ對シ「キヤクロ」及「トシイ」兩驛舍ヲ含ム北樺太東海岸ニ散在スル十一棟ノ建物及「チヤイオ」無線電信所（以上ハ幾レモ日本政府財産ニシテ會社ニ於テ保管セルモノ）ノ引渡シヲ要求シ來リ我方出先官憲再三ノ注意ニモ拘ラス先ツ「キヤクロ」驛舍ヲ收用シ次テ「トシイ」驛舍ヲモ引取ル旨在「オハ」帝國總領事館分館ヲ通シ會社ニ通告シ來リタルコトアリタルモ我方在「ソ」大使館、在亞港總領事館及在「オハ」分館ニ於テ夫々「ソ」當該官憲ニ嚴重抗議セル結果主義的ニハ解決セサリシモ我方要求通リ以前ノ狀態ニ復セシムルヲ得タリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0641

第二項　「オハ」第十五號鑛區內建物撤去問題

北樺太保障占領當時我守備隊ノ專用セル營舍（現在「ソ」側財產）有線電話室、無線通信室、無線發電所及附屬炊事場（以上會社財產）ハ北樺太行政引渡後「ソ」側ニ於テ引繼使用シ來リ現在「オハ」我利權第十五號鑛區內ニ「ソ」官衙勤務員宿舍トシテ殘存シ居リタル處石油會社ニ於テハ該建物附近ニ石油「タンク」數基存在セル爲技術安全規定ニ基ク「オハ」勞働監督署ヨリノ命令ニ從ヒ該建物ヲ撤去セシムル必要生シタルニ依リ昭和七年十月「オハ」執行委員會議長ニ對シ「ソ」側所有ニ係ル建物ノ撤去方並ニ會社財產タル前記電話室外二棟ノ明渡方ヲ請願シ同時ニ前者ニ對シテハ應分ノ賠償ニ應スヘキ旨申入レ其後該建物附近ニ於テ石油坑井掘鑿ノ要ニ迫ラレタルヲ以テ昭和八年三月再度之カ請願ヲ爲シタリ然ルニ執行委員會側ニ於テハ前記「ソ」側建物ニ付テハ勿論會社所屬ノ三棟ニ付テモ其所有權歸屬問題ヲ關聯セシメテ容易ニ撤去ヲ肯セサルノミナラス

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0642

右撤去ニ關スル賠償問題ニ付テハ何等會社ニ諮ル所ナク會社所有建物及一九三二年中「ソ」側カ勝手ニ建設セル建物ヲモ含メ十七萬七千四百二十五留餘ノ法外ナル評價ヲナシ右評價調書ヲ會社ニ提示シ來リタリ依テ會社ハ其無暴ナル評價ヲ難スルト共ニ會社建物ニ付テハ曩ニ「ソ」鑛山監督官ニ提出シアル會社財產目錄ニモ明示セラレ居リ其歸屬明カナルヲ以テ之カ賠償ハ當然其要ナキ旨ヲ主張セルモ「ソ」側ハ中央ニ於ケル財產歸屬權問題未解決ノ今日該建物ニ對スル會社ノ所有權ヲ認ムル能ハスト主張シテ譲ラス容易ニ該建物ノ明渡ニ着手セサリキ

然ルニ其後會社側ニ於テハ事業計畫實現ノ爲該地點ニ於テ速ニ坑井掘鑿ノ要アリタルニ鑑ミ八月中旬執行委員會議長ニ對シ全建物ノ急速撤去困難ナルニ於テハ不取敢掘鑿スヘキ坑井附近ノ會社建物ノ明渡ヲ急速實現セラレタク之カ賠償ニ關シテハ中央ノ解決ヲ待チ「ソ」側ニ歸屬スルコト明カトナラハ會社側ニ於テ右賠償ノ責ニ任スヘ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0642
http://www.jacar.go.jp

キ旨ノ念書ヲ提出スルモ可ナリトノ趣旨ニテ交渉ヲ試ミタルニ對シ「ソ」側ハ先ツ評價額ヲ決定シタル後ニ非サレハ爾餘ノ問題ニ付審議シ難シトテ最初ハ容易ニ會社ノ要求ニ應セサル模樣ナリシモ其後種々懇談ノ結果「ソ」側モ漸ク其態度ヲ軟化シ會社カ坑井櫓ノ築造ヲ開始スルヤ九月ニ至リ先ツ會社建物ヲ明渡シ次テ其他ノ建物ヲモ三、四家族ヲ殘シ全部立退カシムルニ至リタリ茲ニ於テ會社側ハ「ソ」側モ暗ニ會社建物ノ會社所有權ヲ認メタルモノト思惟シ居リタル處前記坑井櫓ノ竣工ニ伴ヒ其近クニ存在セル會社建物取壞シノ必要生スルヤ執行委員會側ハ（議長更迭ス）再ヒ財產歸屬問題ヲ持出シ建物取壞シニ先立チ歸屬權問題解決ノ場合ニ於ケル賠償問題審議ノ爲前回ノ評價カ不當ナルニ於テハ再評價ヲ行フモ可ナルニ付兎モ角双方ノ協定セル評價ノミハ之ヲ行フ要アル旨申越シタリ依テ會社側ニ於テハ該財產歸屬ノ證據トナルヘキ我陸軍省保管ニ係ル北樺太行政引渡當時ノ日「ソ」地方官憲作成ニ係ル議定書寫ヲ「ソ」側ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0644
http://www.jacar.go.jp

送付スルト共ニ之カ歸屬ヲ主張シタルモ「ソ」側之ニ應セス遂ニ昭和九年ヲ迎ヘタルニ付會社側ハ一先ツ該建物取壞シヲ見合セ掘鑿スヘキ坑井ニ最接近セル一棟ヲ法定距離外ノ地點ニ其儘移轉セシムルコトヲ提議シ「ソ」側ノ應諾ヲ得タルニ付本問題ハ依然未解決ノ儘ナルモ差當リ會社ノ事業ニハ支障ヲ來サルルニ至レリ

然ルニ昭和九年三月ニ至リ執行委員會ヨリ會社宛書面ヲ以テ會社建物及「ソ」側建物別ノ再評價額（前者二一、六九四留一八後者一五五、三八一留六八）ヲ通告シ來ルト共ニ右新評價ニ基キ追テ取壞サルヘキ之等建物ノ賠償額ヲ至急協定センコトヲ提議シ尚前記議定書寫ヲ審査シタルモ會社建物ニ對スル其所有權ヲ確證スルヲ得サル旨申越シタリ依テ會社側ハ會社建物ノ歸屬問題ハ之ヲ中央ノ審議ニ移シ其他ノ建物ニ付テハ賠償額ノ協議ニ應スヘキ旨回答スルト共ニ會社側ニ於テモ專門技術者ヲシテ之カ評價ヲ行ハシメタリ

一方會社本社ニ於テハ現地ニ於ケル本件交渉ノ困難ナルニ鑑ミ七月

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0645
http://www.jacar.go.jp

本交渉ヲ莫斯科ニ移シ同地駐在ノ同社出張員及「ソ」聯邦中央利權委員會間ニ於テ交渉ヲ開始セシメタルモ是亦容易ニ妥結ニ至ラス結局「ソ」側ノ主張ニ從ヒ再ヒ現地「オハ」ニ於テ本件審議ヲ再會スルコトトナリタリ

斯クテ會社側ハ九月頃ヨリ「オハ」執行委員會トノ間ニ先ツ莫斯科ニ於テ會社出張員ノ提案セル條件（即チ「ソ」側ニ於テ殘物ノ撤去ヲ行フ場合ハ會社側ヨリ五千留乃至一萬留ヲ支拂フヘク又會社側ニ於テ之ヲ行フ時ハ無償）ヲ基礎トシテ交渉ヲ始メタルモ全然問題トナラサリシニ付更ニ會社側作成ノ評價ニ基キ交渉ヲ試ミル豫定ナル趣ナリ斯ノ如ク財産歸屬問題及賠償問題ハ依然トシテ未解決ノ儘殘サレ居リ之カ解決ニハ尚相當ノ時日ト曲折ヲ免レサル模樣ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0646
http://www.jacar.go.jp

第十六款諸重要懸案解決交渉（秘）

石油會社ニ於テハ利權企業經營上ノ左記重要懸案ニ付之ヲ一括シテ在莫斯科駐在員ヲシテ利權本部ト交渉ヲ行ハシムル事トナリ昭和九年九月ニ入リ交渉ヲ開始セルモ「ソ」側ノ審議手間取リ居レルト利權本部責任者ノ旅行等ノ爲經過捗々シカラズ未ダ何等具体的結果ノ見ルベキモノナシ

第一項石油利權ニ於ケル留問題

北樺太石油會社ニ於テハ從來勞銀、社會保險料、組合費其他ノ支拂ニ要スル留貨ハ勞働者ニ對スル物資ノ賣上ニ依リテ入手シ來リタルガ近來「ソ」側ハ右物資ノ輸入量ヲ勞働者ノ賃銀以上ニ超過セザル樣制限ヲ加ヘ又ハ賣價ニ付干渉スル等ノ態度ニ出デ來リタル爲會社ハ所要留貨ノ入手ニ付晏然タルヲ得ザルニ至リ、今ノ内ニ留問題ニ付「ソ」側ト話合ヲ遂ゲ目下ノ不安定狀態ヲ脫セントスルノ希望アリ。昭和九年五月末在莫斯科小宅代表ヨリ酒匂參事官ニ對シ本社ヨ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0647
http://www.jacar.go.jp

リ本件商議開始ノ命ヲ受ケタルコト及「ソ」側當局ノ意向探究ノ結果一圓對一留ノ換算率ナラバ圓滿解決ノ見込アル旨語リ本件交渉ニ入リ度キ旨申出タル事アルモ大田大使及當省ニ於テハ斯カル交渉ハ漁業交渉ニ於ケル留換算率ノ問題ニ影響ヲ及ボス可キヲ慮リ暫ク之ヲ差控ヘシメ置タリ

然ルニ八月末ニ至リ小宅代表ヨリ他ノ諸懸案ト共ニ留問題ヲモ一括シ「ソ」側トノ交渉ニ入リタキコト、留問題ニ關シテハ漁業ニテ實行サレツツアル債券制度ヲ利權企業ニモ適用セントスルノ案ニシテ假ニ交渉ノ結果漁業ニ於ケル換算率以下ノモノガ石油利權ニテ協定サレタリトスルモ元來兩者ハ經濟的條件並條約上ノ關係ヲ異ニスルモノナルヲ以テ漁業交渉ニ悪影響ヲ及ボササル可ク大田大使酒勺參事官ノ同意ヲモ得タル旨會社ニ入電アリタルニ付右ニ付不取敢大田大使ニ電照シタル處同大使ヨリ石油利權ニ於テ留對圓ノ換算率ヲ伴フ債券制度ニ付交渉ヲ試ムル事ハ漁業關係ニ影響ヲ與フル惧無シトセザル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0648
http://www.jacar.go.jp

モ一方(一)利權契約締結以來事實上一留一圓ノ換算率ヲ用ヒ來リ居リ「ソ」側モ此事實ヲ十分承知シ居ルモ今日迄漁業交渉中何等之ニ言及シタル事無キ事(二)假令「ソ」側ガ石油利權ニ於ケル換算率ヲ漁業交渉ニ於テ援用シ來ルトモ我方トシテハ漁業ト利權トハ明カニ別箇ノ條約關係ニアルコト卽チ漁業ニ關シテハ漁業條約中ニ日「ソ」人ノ均等待遇ニ關スル規定アリ從ツテ留ノ下落ニ其因スル借區料ノ暴騰ヲ調整スル趣旨ニ出デタル昭和六年ノ取極アリ又「ソ」側國營企業ト日本側企業トノ經營關係ヲ調整スル趣旨ニ出デタル昭和七年ノ協定アルモ石油利權ニ付テハ斯ル取極乃至協定無ク利權協定トシテハ北京條約ニ依リ收益的經營ヲ保障セラレ居リ公定相場ニテハ收益的經營不可能ナル爲交渉ヲ爲スモノナリトテ「ソ」側ヲ反駁スル理由アル事(三)漁業留交渉モ重要ナルモ利權事業ガ留資金涸渴シ窮境ニ陷ラントシ居ル事モ之ヲ閑却シ得ザル事

等ノ理由ヨリシテ石油利權ノ事情果シテ逼迫シ居ルモノトスレバ會

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0640

社ガ留換算率交渉ヲ開始スルコトモ亦已ムヲ得ザル可ク漁業交渉ニトリテハ大体差支無カル可シトノ意見ヲ回電シ來レリ

依テ外務本省ニ於テモ本件ニ付審議セル結果漁業及利權企業ニ於ケル留交渉ハ各々其條約上ノ根據ヲ異ニシ漁業ニ在リテハ日「ソ」人均等待遇ノ建前ヨリ出發シ居ルニ對シ利權ニ在リテハ收益的經營ノ保障ヲ根據トシ居ルモノナル故漁業留交渉目下繫屬中ナルモ之ト並行シテ利權留交渉ヲ行フコト差支ナシト云フニ決シ石油會社ニ對シ(一)石油會社ニ於テ近キ將來眞ニ對「ソ」留支拂ニ支障ヲ生スル見込ナルニ於テハ此際留問題ノ交渉ヲ開始シ差支ナキコト(二)圓對留ノ比率交渉ニ當リテハ會社ハ專ラ收益的經營保障ノ規定ヲ根據トシ且成ル可ク漁業留問題ニ影響ヲ及ホササル樣留意スルコト(三十二錢五厘七十五錢ト云フ如キ漁業留交渉ニ關係アル數字ヲ成ル可ク避クルコト(三)換算率取極ハ固定的トセス將來會社ノ收支狀態ニ應ジテ變更シ得ルノ余地ヲ存セシムコト(四)留交渉ニ付石炭會社トノ聯絡ヲ密ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0650

シ事情ノ許ス限リ協調スル事ノ方針ヲ會社ニ通ジ會社側ハ右方針ニ基キテ「ソ」側ト交渉中ナリ

第二項　試掘期限延長問題

石油利權契約第十二條ニ依リ會社カ得居ル試掘權ノ期間ハ十一ケ年ニシテ昭和十一年末ヲ以テ滿期トナリ昭和九年ニ於テハアト二年ヲ殘スノミトナリタル處會社ニテハ過去九年間技術上ノ故障其他各種ノ理由依リテ試掘事業ニ所期ノ成績ヲ擧クル能ハサリシヲ遺憾トシ試掘期限ノ五ケ年延長ヲ「ソ」側ニ交渉スルコトトナリ昭和八年度ヨリ起算シ延長五ケ年ヲ算入セル八ケ年ニ亘ル試掘實行計畫ヲ樹立シ之ヲ基礎トシテ交渉ヲ行ヒツツアリ

第三項　物資輸入問題

石油利權從業員ニ配給スヘキ物資ノ輸入ノ問題ニ付テハ昭和九年會社對「ソ」側當局ノ交渉ニ依リテ決定シタル原則（第十三款參照）ヲ將來モ持續セシムル目的ヲ以テ交渉ニ入リタリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0651

第四項外國人使用比率問題

利權契約第三十一條ニ依レハ石油利權企業ニ從來スル勞働者中其二十五％ハ「ソ」聯邦人以外ノ外國人ノ使用ヲ許サレアリ從來此ノ範圍ニ於テ日本人勞働者ヲ使用シ來リタル處日本人勞働者ハ經費嵩ラス加之能率甚タ拙ル爲會社側ニテハ此ノ比率ヲ改正シテ從來以上ノ日本人勞働者使用ヲ可能ナラシメントシ採掘鑛區ニ於テハ六〇％試掘鑛區ニ於テハ一〇〇％ノ日本人使用方ニ付交渉中ナリ

第五項面積不足ノ試掘區設立問題

石油會社ハ利權契約第十二條ニ基キ北樺太東海岸一千平方露里ノ地域ニ亘リテ試掘權ヲ有スル處試掘區域ハ一定ノ面積（九百六十「デシヤチン」）ト一定ノ形（三對二ノ矩形）ヲ有スルコトトナリ居ルニモ不拘前記一千平方露里ヲ形成スル十一ケノ試掘地方中ニハ元來狹小ナルカ又ハ既ニ他ノ試掘區域存スル爲右面積及形狀ノ試掘區域ヲ包含シ得サルモノ四ケ所アリ依テ此四地方ニ於テハ必スシモ右ニ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0652

拘泥セス面積不足ノ區域ヲ設立シ得ルコトニ付「ソ」側ノ同意ヲ取付ケントスルモノナリ

第六項會社船舶ニ依ル輸送ノ問題

會社船舶ニ依ル北樺太日本間ノ輸送ニ關シテハ昭和五年度ノ協定即隻數ニ制限ナリ自由ニ東岸各地ニ寄港シ得ル事ト爲ス樣交渉シ居レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0653

第二節　北樺太鑛業會社ノ石炭利權關係諸問題

第一款　北樺太鑛業會社ノ事業現況

會社ノ組織、資本金及純益金

一、北樺太鑛業會社ハ日「ソ」基本條約附屬議定書乙ニ基ク利權契約及同利權ニ關スル大正十五年ノ勅令第九號ニ依リ北「サガレン」石炭企業組合ノ事業ヲ繼承シテ大正十五年八月二十一日設立セラレタルモノニシテ其ノ公稱資本金ハ一千萬圓、拂込資本金ハ五百萬圓ナリ同會社ノ利權鑛區ハ北樺太西海岸ニ於ケル「ドウエ」、「マーチ」、「ヴラヂーミルスキー」ノ三炭田ナルカ其ノ内目下稼行シツツアルハ「ドウエ」ノミナリ

過去ニ於ケル同社ノ營業成績ハ振ハス辛シテ缺損ヲ免レ得タル實情ナリシカ昭和七年來稍見直シ昭和八年三月締切ノ昭和七年度決算ニ於テ六十五萬圓ノ純益金ヲ擧ケ創業以來始メテ株主配當（三分）ヲ行ヒ引續キ昭和八年度決算ニ於テモ三分ノ配當ヲ行ヒタリ

採炭量

二、會社ハ昭和九年度事業計劃ニ於テ一五四、四七五屯ノ採炭ヲ豫想

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0654
http://www.jacar.go.jp

シ居ル處同年十一月末迄ノ實際採炭量ハ一三九、四七五屯ナリ尚

創業以來ノ採炭量左ノ如シ

	屯
大正十五年度	九〇四八〇八四
昭和二年度	九五一四五〇七〇
昭和三年度	一一〇五五〇〇四五
昭和四年度	一二〇〇二六〇一五
昭和五年度	一二〇八三三〇〇〇
昭和六年度	一三〇六五〇〇〇〇
昭和七年度	一二五五五〇〇〇
昭和八年度	一四〇一六〇〇〇〇

內地送炭量　昭和九年四月ヨリ十一月ニ至ル內地向送炭實量ハ一九八、一四五屯ニシテ內會社炭一四四、六八八屯「ソ」側ヨリノ買入レタル「マカリエフスキー」炭五三、四五七屯ナリ

因ニ創業以來ノ內地向送炭量左ノ如シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0655

大正十五年度	九〇四〇
昭和二年度	四〇五六〇
昭和三年度	一〇一四二五
昭和四年度	一一二一五〇
昭和五年度	一二〇〇〇〇
昭和六年度	一一六四三〇
昭和七年度	一三三五四〇
昭和八年度	一六八五九八

販路

四、「ドウエー」產石炭ハ製鐵用、鑄物用骸炭トシテ他ニ比ヲ見サル良質ノモノニシテ主トシテ內地ノ主要製鐵所及骸炭製造所ヘ賣渡サル

勤務員及勞働者數

五、企業地ニ於ケル昭和九年八月一日現在ノ從業員數ハ勤務員九二勞働者一三五九計一、四五一ニシテ之カ國籍別ハ日本人勤務員六九勞働者四〇二、鮮人勞働者八、支那人勤務員四勞働者一四七、露

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0656
http://www.jacar.go.jp

人勤務員一九勞働者八〇二名ナリ
而シテ參期ニ入レル十一月一日現在ニテハ勤務員八四勞働者一三二八計一四一二ニシテ日本人六五及三八二鮮人九支那人四及一四二露人一五及七九一ナリ

第二款　「ソ」聯炭購入ノ件

ヘマカリエフスキー炭買入契約ノ件

昭和九年二月駐日通商代表部ト鑛業會社トノ間ニマカリエフスキー炭五萬瓲買入ニ付契約成立セルガ更ニ其後「ソ」側ノ增量申出ニ基キ一萬瓲ヲ追加契約シタリ
尙右ノ中實際內地積來數量ハ五萬三千四百五十七瓲ナリ

ヘロガートイ炭買入不調ノ件

ロガートイ炭買入ニ付テハ鑛業會社ニ於テ昭和八年末以來通商代表部トノ間ニ下打合モアリ且蘇側現場當局ニ於テモ二萬五千屯ノ賣却希望ヲ表明セルニ付昭和九年四月以來通商代表部ヲ通ジ又ハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0657

直接外國貿易部宛契約取極方再三提議スルト共ニ其部度モスコー大使館ニ於テモ斡旋スル處アリ折角商談ノ成立ニ努メタルモ先方ハ同年度同炭ガ同年度輸出計畫ニ含マレ居ラサルコト及一般ニ國內需要ニ追ハレテ樺太炭ノ輸出餘力無シト繰返スノミニテ遂ニ商談不成立裡ニ同年度送炭期ヲ終ルコトトナレリ

第三款　積込人夫入露交渉ノ件

本件ハ例年多少ノ曲折ヲ見ルコトアルモ常ニ圓滿解決シ送炭作業計畫ニ支障ヲ來シタルコト無シ唯本年度ハ從來此種問題ニ付權限ヲ有シタル哈府極東地方勞働部ガ一九三三年末ニ於テ廢止セラレ其後之ニ代ルベキ地方機關明カナラザリシ爲例年ニ比シ交渉遷延シ運炭開始期直前ニ至ル迄解決セス本年度送炭計畫ニ支障ヲ來スニ非スヤト憂慮セラレタルモ外務省、莫斯科大使館、哈府、亞港各地總領事館ニ於テ斡旋盡力ノ結果漸ク會社申請ノ所要人員二八二名全部ノ入露許可ヲ得無事送炭ヲ開始スルコトヲ得タリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0658
http://www.jacar.go.jp

第四款　利權企業從業員ノ再入國査證手續簡易化ノ件

從來土感企業ニ在リテハ其ノ從業員カ一時休暇歸國ノ上再入國ヲナス場合ハ會社側及鑛山委員會ヨリ休暇歸國證明書ノ發給ヲ受ケ之ヲ在本邦「ソ」聯邦領事館ニ再入國査證願出ノ際呈示スル例ナリシ處昭和八年度ヨリ鑛山委員會ハ右證明書ノ發給ヲ拒絶シタル爲前記再入國査證出願ノ都度右領事館ヨリ「ソ」側關係官廳ニ電報ニテ照會スル等多大ノ時間ト手數ヲ要シ會社側ハ甚シキ不便ヲ感シツツアリタリ然ルニ昭和九年三月在亞港外務交渉員ヨリ同地我總領事館ニ對シ爾今北樺太ニ於ケル日本利權企業從業員ニシテ休暇ヲ得テ歸國シ再ヒ入蘇スル者ハ再入國査證手續ヲ簡易ナラシムル爲ニハ出國ニ際シ査證下附願提出ト同時ニ「休暇ノ爲歸國シ遠カラス歸來スルモノナル」旨ノ企業當局ノ證明書ヲ提出スルニ於テハ亞港外務交渉署或ハ「オハ」派遣員ニ於テ之ヲ認證スヘク之ヲ在函館又ハ在東京「ソ」

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0659

聯邦領事館ニ呈示スルトキハ支障ナク北樺太入國ノ査證ヲ發給セラル可キ旨通報シ來リ之ヲ以テ再ヒ簡易手續ノ途開カルルニ至レリ

第五款　團体契約改訂

昭和八年三月締結セル團体契約ハ昭和九年三月ヲ以テ滿期トナレル處之ヲリ先莫斯科全露石炭工業勞動者組合中央委員會ヨリ團体契約改訂方申込ミ來リ右改訂交渉ハ在浦潮極東地方委員會ニ一任セル旨申越セルニ付會社ヨリ胡厩本蔦一ヲ浦潮ニ派シ交渉ヲ行ヒタル結果些シタル問題モ無ク前年度團体契約ニ二三修正ヲ施シテ改訂交渉成立四月二十一日調印セルガ新契約ハ四月一日ヨリ一ケ年間有效ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0660

第六款　土威鑛業所燒失宿舍保險金問題

昭和八年十月四日土威鑛業所第三號宿舍火災ニ依リ燒失シタルヲ以テ鑛業所ニテハ右建物及其內部設備ニ對スル保險金九千百九十八留余ヨリ燒殘リ物ノ價格ヲ差引タル八八五五留ノ支拂ヲ國營保險「サガレン」州支部ニ對シ請求シタル處昭和九年五月ニ至リ同支部ハ三號宿舍ノ火災ハ保險契約者ノ責卽會社管理部ニ於テ適時ニ煙突ヲ修理セス又防火規定ヲ守ラサリシ怠慢ヨリ發生シタルモノニ付一九三三年五月二十八日附「ソ」聯邦人民委員會議決定第一〇九號第十七條ニ基キ右損害ノ塡補ヲ拒絕スル旨通知越タルニ付折返シ定額義務保險規定ハ會社財產ニ適用サル可キモノニ非ルコト會社ハ煙突ノ檢査ヲ定期行ヒ居タルコト等ヲ擧ケテ反駁シタルニ昭和九年五月二十六日附ヲ以テ本件請求ハ國營保險極東支部ニ移牒セル旨通知アリ其後再三督促ノ結果九月末ニ至リ本件請求ハ國營保險本部ニ於テ承認セラレタルニ付清算ノ爲代表者派遣方申越アリ十月二十七日右清算

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0661

ヲ了シ前記請求額全額ヲ受領セリ

第七款　土威企業用木材料金値上問題

土威鑛業所ニ於ケル石炭採掘ニ必須ノ杭木及建築用其他ノ木材ハ現地ニ於テ薩哈嗹林業「トラスト」ヨリ拂下ヲ受居ル處其所要額ハ年々增加シ昭和八年度ニ於テハ約五万石（内杭木四万石）ニ達シ居レリ、然ルニ昭和九年七月林業「トラスト」ヨリ書面ヲ以テ一九三三年八月廿八日附極東執行委員會ノ決定ニ基キ薩哈嗹島ニ於ケル石炭並ニ石油地方ハ料率表一等級ヲ適用サルルコトトナリタルニ付木材拂下料ハ大五、四六留中四、〇九留小二、四五留ニ値上サレタル旨通告シ來リ次テ杭木ハ右決定中ノ「小」ト見做サルル旨通知越セリ右新料率ハ從來ノ料率即チ大三、五三留中二、六五留小一、五九留杭木五三哥ニ比シ一、五倍ノ値上殊ニ杭木ニ付テハ五倍ノ値上ニシテ會社側ハ元來事業ノ基礎的要素タルト共ニ經營上ノ一大負擔タル木材ニ對シ斯ル急激ナル値上ヲ實施スルハ企業經營ヲ益々困難ナラ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0668

シムルモノニシテ利權契約第二十三條ノ精神ヨリスルモ不當ナリト爲シ早速林業トヲスト折衝シタル處値下ノ間題ハトヲストノ權限外ニ付利權ノ監督官廳タル鑛山署ト交渉スヘキ樣回答アリ依テ會社ハ鑛山署ニ對シ新料率ハ値上リ余リニ急ニシテ會社ノ到底堪ヘ得サル處ナルニ付會社ニ對シテハ特ニ例外ヲ認メテ從來ノ拂下料率ヲ適用セン事ヲ請願シタル處鑛山署ハ右願書ヲ重工業人民委員部ニ廻附シタル趣ニシテ一方鑛山署長ト交渉ノ結果中央ノ決定アル迄拂下料ハ新料率ニテ計算ノ上供託スルコトニ協定成立セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0662

第八款　土威鑛業所ノ物資輸入問題

一、從來ノ經過鑛業會社ガ其ノ土威鑛業所從業員ニ配給ノ爲輸入スル物資ニ付テハ利權契約締結後一九二七年迄ハ利契第十七條ニ基キ鑛業所ハ輸入ノ都度輸入品目錄ヲ駐日ソ聯邦商務館ニ提出、其認可寫ヲ鑛山署及稅關ニ送付シ支障ナク物資ノ輸入ヲナシ來リタルカ一九二八年度輸入ノ分ヨリ會社カ輸入セントスル物資ハ駐日商務官ノ要求ニ基キ輸入前豫メ一ケ年分ヲ亞港鑛山署ニ申請シ其認可セル品目表ニ基キ商務館ニ於テ輸入物資ニ査證スルコトニ手續變更セラレタリ

鑛山署ニ對シテハ會社申請輸入物資ノ査定資料トシテ一九三〇年度迄ハ豫定勞働者及其家族員數並ニ配給標準ヲ提出シ居タルトコロ一九三一年度以降ハ右ノ外年額豫想賃銀、期末物資在庫高等ノ報告ヲモ要求シ來リタルモ鑛業所ハ或種一部ノ報告提出ハ之ヲ拒絕シタルコトアリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0664

二、本年度ノ物資輸入許可交渉經過

鑛業所ハ從來ノ例ニ基キ本年度豫定輸入物資目錄ヲ一九三三年十月十四日當地鑛山署ニ提出シ之カ認可ヲ申請セル處鑛山署ハ從來ノ査定資料ノ外一九三四年度ノ事業計畫提出方ヲ要求シ來リタルニ付直チニ之ヲ提出シ置キタルカ更ニ一九三三年十二月廿九日査定資料トシテ一九三四年一月一日現在物資手持高ノ報告方ヲ申越シタルニ付鑛業所トシテハ本年度輸入物資數量及品種査定ノタメニハ主要物資ノ四月末豫想高ヲ提出スルヲ適當ト認メ一月上旬之ヲ報告シ本問題ノ至急解決方ヲ要請セリ

三月初旬ニ至リ鑛山署長ハ中央ノ指令ニ基クト稱シ會社カ輸入セントスル物資ハ會社カ勞働者ニ支拂フ賃銀ノ範圍内ニ於テ鑛山署カ輸入物資ノ總額ヲ査定シ其査定額ノ範圍内ニ於テハ品種及品種別數量ニハ制限ナク通商代表部之ヲ査證スルノ新方法ニヨル旨通告シ來ルト共ニ其査定資料トシテ本年度賃銀豫想額及當時在庫高ノ報告書提出方

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0665

ヲ要求セリ、鑛業所トシテハ其輸入シタル物資ヲ專ラ利權企業ノ勞働者及其家族ノミニ配給シ社外ヘノ販賣ハ重大ナル利契違反ナル限リ配給ヲ義務付ケラレタル生活必需品ヲ必要量以上輸入スルノ要ナキハ勿論ナルヲ以テ〆側トシテハ會社申請ノ物資ヲ其儘認可シテ差支ヘナキ筋合ノモノナルコトヲ主張シ一方在庫品ノ數量及價格ハ營業上ノ秘密ニ屬スル場合アルニ付在庫高報告ノ提出ハ之ヲ拒絶シ賃銀豫想額ノミヲ報告シテ目錄認可方ヲ再督促セリ

一方通商代表部ニ於テハ四月末第一回（勝利號積）輸入分ハ支障ナク之ヲ査證シタルモ第二回（五月七日横濱出帆萬達丸積）及第三回（五月廿三日小樽出帆吳竹丸積）分ニ付テハ鑛山署ヨリノ提案ニ依ルトテ物資納入先ノ受領證提出（一九二八年以來屢々繰返シ主張シ來レルモ當方ハ飽迄之ガ提出ヲ拒絶シタリ）ヲ要求當方ノ右拒絶ヲ理由ニ査證ヲ肯ンセス結局無査證ノ儘積送陸揚セリ（兩船分共一ヶ月内ニ正式許可ナキ場合ハ十倍ノ稅金ヲ支拂フ旨ノ保證狀ヲ差入ス）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0666

其後鑛山署及通商代表部トノ間ニ何等カノ打合ヲ遂ゲタルモノノ如ク右兩船積送物資ニ對シ通商代表部ヨリ六月四日付ヲ以テ認可書發給アリ右ニヨリ無事通關ヲ了シタリ

越ヘテ六月十九日附ヲ以テ通商代表部ヨリ本年度ハ納入先ノ受領證提出ノ要求ヲ讓歩スルニ付輸送物資ノ東京市場小賣値段表ヲ提出スベシト申來レルガ右ニ對シ最初會社側ヨリ「イヤモンド」社調査物價表更ニ東京市設小賣市場發行ノ小賣物價表ヲ提出シタルニ通商代表部ハ右ハ非公式機關ノモノナリト稱シ既ニ北樺太石油會社ヨリ提出シタル例ニ倣ヒ東京府小賣市場協會發行ニ係ル小賣物價表ヲ提出方再度申越シタルニ依リ會社ハ更ニ右ヲ拒絶抗議シタルモ通商代表部ハ右物價表ヲ提出セザル場合ハ爾後ノ輸入物資認可並ニ鑛山署側ノ配給値段認可ニ際シ考慮スル所アルベシトテ暗ニ認可遷延乃至ハ不認可ヲ仄メカシ來ルニ至リ一方石油側ニテハ既ニ提出セルコトニモアリ又越年物資ノ輸入ヲ目前ニ控ヘ時期ヲ失シテハ輸入不可能ト

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0667

ナル惧モアリ已ムヲ得ス右ノ要求ヲ容ルルコトトシ兎モ角本年度物資輸入ヲ了リタリ。

第九款　鑛業會社ノ留資金問題

北樺太鑛業會社ハ「ソ」聯領内ニ於テ稼行スル關係上勞銀、社會保險料組合納金火藥及原木購入費等ニ年々巨額ノ留貨ヲ必要トスル處昭和六年朝鮮銀行支店ノ浦潮引揚以後ハ手持留貨ニ依リテ一時ヲ糊塗セル外會社ガ利權契約第十七條ニ基キ會社勞務者ニ供給スル爲内地ヨリ輸入スル物資ノ品種及數量ヲ增シ會社ガ勞働者ニ支拂フ賃金以上ニ購買セシメテ所要留貨ヲ吸收スルノ手段ニ出デ多少ノ紛糾ハアリタルモ昭和九年度迄ニ兎ニ角其ノ目的ヲ達シ來レル處同年ニ至リ鑛山署ハ會社ノ輸入物資總額ハ會社ガ勞務者ニ支拂フ賃銀總額以下ニ於テノミ許可スルモノト爲スノ方針ヲ採リ又物資ノ配給値段ヲ低下セシムル目的ヲ以テ原價算定ノ資料トシテ日本ニ於テ物資仕入ノ際ノ納入者受領證ノ提出ヲ求ムル等著シク壓迫的態度ニ出テ來レル爲會

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0668

社ハ今後ノ留調達ニ付物資輸入ノ方法ニノミ依ルコトニ多大ノ不安ヲ感スルニ至リ何等カノ對策ノ樹立ヲ必要ト爲スニ至レリ

而シテ會社トシテハ根本的解決策トシテハ「ソ」側ト交渉ノ上留貨對圓貨ノ換算率ヲ會社ニ有利ナル比率卽チ一留二十錢以下ニ決定スルヲ以テ最善ノ策ト爲スベキモ差當リ從來ノ物資輸入策ヲ基礎トシ

(一)會社ノ希望通リノ品種及數量ノ物資ノ輸入ヲ許可スルコト

(二)利契第十七條ニ所謂第一必需品（右ハ現行團体契約ニ規定サレタル保障物資ト同範圍ナリト主張ス）以外ノ物資ニ對シテハ鑛山署長ノ配給値段認可權ヲ認メザルコトノ二點ニ付「ソ」側ト折衝ヲ行ヒ度シトノ希望ヲ有シ居レリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0660

第三節　坂井組合ノ石炭利權

第一款　坂井組合利權ノ管理問題

利權ノ管理委員

一、坂井組合ハ日露條約ニ基キ大正十四年末莫斯科ニ於テ締結セラレタル利權契約ニ依リ北樺太西海岸「アグネヴオ」炭坑ノ經營利權ヲ得タル處本邦ニ於ケル炭界ノ狀況、資金其ノ他ノ關係上久シク積極的事業ニ着手シ得サル狀況ニアリ依テ帝國商工省ノ希望モアリ本帝國利權ノ維持伸張ヲ期スルノ趣旨ニ基キ昭和五年六月十六日坂井組合ハ北樺太鑛業會社トノ間ニ契約ヲ締結シ後者ニ對シ主トシテ炭層調査ニ付「アグネヴオ」利權ノ管理ヲ委任シタリ

炭坑調査ノ實行

二、北樺太鑛業會社ニ於テハ右委任ニ基キ昭和五年八月東北帝國大學杉山助教授及同大學學生ニ依囑シ約半ケ月ニ亘リ「アグネヴオ」炭坑ノ調査ヲ行ヘリ

「ソヴイエト」當局ノ「アグネヴオ」炭坑視察

三、昭和六年八月十八日北樺太鑛山署長ハ專門技師等ヲ帶同突然「アグネヴオ」炭坑ニ至リ實地檢査ヲ行ヒタル上炭坑カ斯ク荒廢ニ委

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0670

シアルハ誠ニ遺憾ナルニ付詳細莫斯科ニ報告スヘシトテ一ノ文書ヲ作成歸還セル趣ナリ

依テ北樺太鑛業會社側ニテハ坂井組合代表ヲシテ鑛山署長ニ對シ「坂井組合ニ於テ決シテ炭坑ヲ輕視シ居ルニ非ス現ニ昭和五年ニモ調査ヲ遂ケタル程ニテ之ニ基キ今後ノ經營方法ニ付折角考量中ナルモ目下炭界ノ世界的不況ノ爲目下ノ儘ニテハ採算立タサルニ付新方法ニ依リ採炭ヲ再開シタキ意向ヲ有シ居ル」旨ヲ説明セシムルコトトセル一方日本側ニテモ本炭坑ヲ輕視シ居ラサルコトヲ「ソ」側ニ示サン爲ヲモ兼ネ北樺太鑛業會社「ドウエ」鑛業所長自ラ昭和六年九月十三日同炭坑ヲ視察調査スル所アリタル趣ナリ

其後昭和九年七月ニ至リ在亞港緒方總領事ヨリ坂井組合ニ於テ永ク利權企業ニ着手セサルトキハ「ソ」側當局ニ於テ何等カノ措置ニ出ツ可キ虞アリトシテ同組合ノ注意喚起方申越タルニ依リ組合代表者ノ來着ヲ求メテ現況ヲ訊シタル處出資ノ見込付キ事業ノ成

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－067

立ニ付折角奔走中ナリトノ事ナリシカ同年秋季ニ入リ富山縣方面ニ出資者ヲ得テ調査ニ着手ノ運ヒトナリ既ニ關係者渡樺ノ爲旅券下附願提出濟ナリシ處十月ニ至リ有力ナル出資者タル八島庄太郎病死シタル爲計畫ニ一頓挫ヲ來シタルカ其後他ニモ出資者ヲ求メツツ計畫立直シニ努力中ナル趣ナリ

第二款　「ソヴイエト」聯邦最高國民經濟會議對坂井組合訴訟事件

「ソ」側ヨリノ財産使用料請求訴訟提議

一、「ソヴイエト」政府側ハ北樺太保障占領中タルト否トヲ問ハス同地ニ在ル一切ノ鑛業企業財産ハ國有令ノ效力ニ依リ「ソヴイエト」聯邦ノ國有トナレルモノナリトノ主張ヨリ出發シテ現在坂井組合ノ利權地域内ニ存スル露人「クヅネツオーフ」施設ニ係ル一切ノ有體財産設備ハ「ソヴイエト」政府ノモノニシテ坂井組合ニ於テ借用シ居ルモノニ外ナラスト爲シ從テ利權契約ノ規定スル所ニ依リ其ノ全價格ノ四「パーセント」ニ相當スル使用料ヲ毎年納入ス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0672

ヘキ義務アリト主張シ終ニ昭和三年六月利權契約當事者タル「ソヴイエト」聯邦最高經濟會議ヨリ坂井組合ヲ相手取リ利權契約ニ規定スル爭議解決方法ニ從ヒ「ソヴイエト」聯邦最高裁判所ニ右使用料五千三百六十七留六十八哥請求訴訟ヲ提起シタリ

坂井組合ノ抗議

二、之ニ對シ坂井組合側ハ北樺太石油、石炭事業關係財産ノ所有權問題ハ日露兩國政府間ノ交渉ニ依リ初メテ解決セラルヘキモノニシテ又現ニ之カ交渉進行中ナルニ顧ミ同組合トシテ前記訴訟ニ應スヘキ限リニ非ラストシ抗議シタリ

帝國政府ノ見解及措置

三、一方我政府ニ於テモ「ソヴイエト」政府ニ對シ本件使用料支拂ノ爲ニハ先以テ問題タル財産中如何ナルモノカ「ソヴイエト」聯邦ノ所有ナリヤ否ヤヲ決スルカ先決問題ニシテ此問題決セラレテ始メテ利權契約ノ適用ヲ見得ヘキ處右問題ハ占領ノ法律的效力乃至北樺太引渡ノ效果ト關聯シテノミ決セラルヘキ處ナリ從テ右ハ性質上外交問題タルト共ニ現ニ兩國政府ハ右ニ關シ爭議繼續中ナリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
議40－0672
http://www.jacar.go.jp

然ルニ最高經濟會議カ右兩國政府間爭議ノ對象タル財産ニ付一方的ニ所有權ヲ認定シ使用料ノ請求訴訟ヲ提起セルハ甚タ不當ニシテ日本政府ハ右訴訟ノ判決ニハ服スル能ハサル旨ヲ嚴重ニ抗議セルモ「ソヴイエト」側ハ利權契約ニ依レハ利權地域内ニ於ケル「ソヴイエト」政府ノ財産ニ對シ使用料ヲ支拂ハルヘク而シテ利權契約ノ解釋及實行上ノ紛議ハ「ソヴイエト」聯邦最高裁判所ニ於テ解決セラルヘキコトカ規定セラレ居レリ本訴訟ハ右使用料ノ請求ニ外ナラスシテ若シ坂井組合カ使用料支拂ノ對象タル財産ノ所有權ニ付異議アラハ訴訟ニ於テ爭フヘキモノナリ要スルニ本件ハ利權契約ノ範圍内ノ事項ニシテ之ヲ外交問題ト認ムルヲ得ス日本側ハ本件カ現ニ兩國政府間交渉ノ對象トナリ居レリト主張スルモ「ソ」側ハ日本大使館トノ交渉ニ於テ嘗テ前記建前ヲ拋棄シタルコトナシトノ主張ヲ固持シテ讓ラス

四、斯ル間ニ最高裁判所ハ昭和五年一月三十一日坂井組合ニ對シ使用

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0674

及坂井組合貯炭ノ差押

料ヲ支拂フヘキ旨ノ判決ヲ下シ次テ同年六月「アグネヴオ」山元ニ於ケル同組合ノ貯炭五千噸ヲ差押ヘタルニ付組合側ニ於テハ右差押手續其ノ他ノ點ニ關シ異議ヲ申立タルモ何等ノ效果ナク「ソヴイエト」當局ハ二回ニ亘リ右差押石炭ノ競賣ヲ行ヘリ但シ兩回共參加者ナク不成立ニ終レリ、右ニ對シテハ更ニ坂井組合ヨリ抗議ヲ爲シ在亞港帝國總領事亦同組合ヲ支持シテ「ソ」側ノ注意ヲ喚起セルモ結局問題解決セス一方「ソ」側ニ於テモ本件ニ付何等ノ措置ヲ講スルコトナクシテ今日ニ及ヘリ

第四節　塚原組合ノ石炭利權

利權地域ノ調査問題

大正十五年二月塚原組合ハ「ソヴイエト」政府トノ間ニ利權契約ヲ締結シ北樺太西海岸「コスチナ」ニ於ケル炭坑經營ノ利權ヲ獲得セルモノナル處同契約ニ依レハ塚原組合ハ昭和二年十一月一日迄ニ炭田ノ調査ヲ行ヒ昭和三年一月三十一日迄ニ調査地域中ノ一定部分ノ賦與方ヲ北樺太鑛山署長ニ申請スヘク若シ右期間内ニ申請ナキ場

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0675

合ニハ利權契約ハ失效スルモクトセラレタリ

調査未着手ノ理由

然ルニ本邦炭界不況ノ關係、資金ノ關係等ノ爲塚原組合ニハ契約所定ノ期日内ハ勿論今日尚調査ヲ終ヘ事業ニ着手シ得サル有様ナリ

調査期間延期ノ請願

依テ塚原組合ハ昭和三年十一月十四日附ヲ以テ調査期間ノ延期ヲ「ソヴイエト」當局ニ出願シタル趣ナリ

在東京「ソヴイエト」通商代表部利權委員會ヨリ利權區域ノ調査並事業着手時期ニ關シ照會

然ルニ翌昭和四年ニ至リ在東京「ソヴイエト」通商代表部利權委員會ヨリ利權區域ノ調査並事業着手時期ニ關シ照會越セルヲ以テ塚原組合ハ重ネテ同年十一月十四日前記事情ヲ具シ向フ一ケ年ノ延期ヲ請願シタル處同委員會ヨリ昭和五年一月一日附ヲ以テ利權契約ヲ破棄スヘシトノ通報ニ接スルニ至レリ依テ塚原組合ニ於テハ同委員會ニ對シ組合ノ立場ヲ說明シテ調査期間ノ延期方懇請シタル處莫斯科利權局ノ裁斷ニ待ツノ外ナシトノコトナリシヲ以テ重ネテ昭和五年二月十四日前記ノ如キ調査及事業着手期ノ遲レタル理由ヲ述ヘ昭和六年夏頃迄延期アリタキ旨ノ願書ヲ通商代表部利權委員會ニ提出シ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0676

タル趣ナリ右ノ結果事件ハ莫斯科ニ移サレタル儘ニシテ今日迄何等解決ヲ見ルニ至ラス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－06フ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp
議40－0678